



水大学園だより

国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産大学校 〒759-6595 下関市永田本町2丁目7-1 電話083(286)5111
ホームページ <http://www.fish-u.ac.jp> [発行] 学生課

「コロナと生きる、その2」

理事(水産大学校代表) 荒井 修 亮



平素より保護者の皆様をはじめ関係各位には、水産大学校の運営に際して多大なご支援とご理解を賜り、誠にありがとうございます。

昨年末、水大学園だより第51号の原稿を依頼されたときは、新型コロナ感染者はほとんど0の日が続いていました。そうした状況なので、51号が印刷される頃には、新型

コロナが終息し、いわゆる日常が戻っているのではないかと、根拠もない楽観的な希望を持っていたのですが…。本稿を執筆している1月末、連日感染者が増え続けており、全国ではいよいよ8万人を超える状況となっています。49号では、「コロナと生きる、ピンチはチャンス！」と題して昨年度に行った新型コロナ対策について述べましたが、今回も残念ながら引き続き新型コロナ対策についての話をさせていただくことになります。

水産大学校における、新型コロナ対応ワクチンの職域接種(写真)は、ワクチンの供給が一時停滞したことにより、当初予定していたスケジュールからは一月ばかり遅れることになりました。そのため当初の予定であれば、ちょうど夏季休暇中に2回の接種が完了する計画が、10月末までずれ込むことになりました。しかし、予定していた1000名(接種2回でのべ2000名)に対して、のべ1942名にモデルナ製ワクチンの接種を行いました。その内訳は、本校の学生(のべ1107名)、教職員(のべ317名)に加えて、地域の蒲鉾組合(のべ237名)ならびにその他下関市民(のべ281名)となります。職域接種にあたっては、本校の教職員はもちろんのこと、山口県済生会豊浦病院の医療関係者の皆様には多大な

るご協力をいただきました。改めてここに感謝を申し上げる次第です。なお、現在、3回目の職域接種を行うべく、準備を進めていることを申し添えます。

アンケート調査などから、およそ8割の在校生が職域接種または地元やアルバイト先などで2回のワクチン接種を完了していることが確認できました。こうした状況を踏まえて2回目の職域接種が終わった2週間後から対面での授業を再開しました。もちろん日常の体調管理については引き続き万全を期すこととし、検温、手指消毒、マスク着用、3密回避、各授業の終了時の机のアルコール消毒など、キャンパス内での感染防止策は徹底して行っています。また練習船と小野臨湖実験実習場での実習は、実習前2週間の体調管理に加えて、全員PCR検査で陰性の確認を行い実施することとしました。

しかし、年が明け、成人の日をむ3連休が過ぎた頃から、帰省先での感染や下関市内での感染の報告が増えてきました。これは、感染力が強いといわれるオミクロン株による感染の拡大が原因であると思われます。こうした状況下、再び授業を遠隔で行わざるを得ないと判断したところです。また残念ながら、現時点では卒業式(3月21日)ならびに入学式(4月6日)については、当該学生と関係教職員だけで行う予定であることをお伝えせねばなりません。卒業式へのご列席を楽しみにされていた保護者の皆様には大変申し訳のないことですが、事情をご賢察の上、なにとぞご容赦の程、お願い申し上げます。

最後に、49号と同じ言葉で締めくくりたいと思います。明けない夜はありません。学生諸君には明るい未来を信じて、いまできることを精一杯がんばって欲しいと願っています。ピンチはチャンス！



最近の話題

コロナ禍の「水産物フードシステム実習」について

水産流通経営学科 助教 藤井 陽 介

本記事では、令和2年度および令和3年度に行った水産物フードシステム実習について紹介します。

水産流通経営学科では、1年生を対象に、「水産物フードシステム実習」を実施しています。本実習は、水産流通経営学科の学生が初めて履修する実習です。通常であれば、実習では生産者-消費者までの一連の流通段階について、現地を訪れて聞き取り調査を行うなど、「実際の水産物の現場に触れること」を重視した内容が行われます。



令和3年度 吉見の食品小売店での聞き取り

しかしながら、令和2年度、令和3年度はコロナ禍に見舞われ、従来の形で実習を行うことが出来ませんでした。このような状況でも、学生に加えて実習でお伺いする漁業者や卸売市場職員の方々の安全性も考慮しつつ、教育の質を担保した実習の在り方を模索してきました。以下では、令和2年度、令和3年度に行われた実習について簡単にご紹介します。

従来の水産物フードシステム実習は、セリ見学や新規漁業就業者への聞き取り、鮮魚を扱う小売店および水産加工場への聞き取り、山口県庁職員様からの水産行政に関する講義、などが行われています。これらは全て対面で行われていましたが、令和2年度以降は対面形式での実施を断念せざるを得ませんでした。

令和2年度の実習は、対面形式に代わってMicrosoft teamsを用いたリアルタイムオンライン形式で実習を行いました。この時、学生は自宅からteamsに接続し、教員が現地に赴いて講師と共にteamsに接続をしました。従来とは違う形での実習でしたが、県庁職員から水産行政についての講義を受けた後には質疑応答を交わすなど、従来と近い実習であったと感じています。一方で、どうしても現地での接続が困難であった水産加工場の内部見学は、録画等での対応となりました。

令和3年度になると、実習先にもteamsなどの遠隔会議ツールが整備され、教員が現地に赴かずともリアルタイムオンライン形式で実習を行うことが出来ました。また、感染症対策を徹底した上で、吉見地区内の鮮魚小売店に直接お伺いすることが出来ました。1年生にとっては、対面授業の経験も乏しい中で実際に実習先を訪れたことで、新鮮な学びが得られたように思います。

このように、従来とは異なる形の実習となりましたが、実際の水産業に触れることを重視しつつ、状況に合わせた実習を行いました。

「世界初」—耕洋丸第96次航海—

海洋生産管理学科 教授 柏野 祐二

研究をしている皆様は、研究と言う仕事を他人にどのように語っているのでしょうか。私は本校の学生にはいつも「研究とは新しいことを見つけること。」

と言っています。研究することにより世界中で自分しか知らない新しいことを見つけた時の感動、そしてそれを論文（もちろん、日本人しか読まない和文論文ではなく、インパクトファクターが付いて広く読まれる国際誌に投稿する英文論文）にして、世界中の人々にその発見を伝えることの喜びを学生に伝えるようにしています。では、新しいことを見つけるにはどうすれば良いでしょうか。最も簡単な答えは、世界中で誰もやっていない新しいことをやることです。今回の耕洋丸第96次航海（1月19日下関出港～1月30日横浜入港）ではそれを実現したものです。

昨年（2021年）12月末に滋賀県の彦根市周辺で24時間降雪量が観測史上1位を記録し、高速道路や新幹線が止まったことは記憶していると思います。その大雪を降らせたのはJPCZ（Japan Sea Polar Air Mass Convergence Zone：日本海寒帯気団収束帯）と呼ばれる大気の構造で、最近マスコミに時々登場するので、聞いたことがある人もいるかと思います。このJPCZというのはシベリアから吹いてくる北西の季節風が北朝鮮の北部にある白頭山という山にぶつかり、その山を迂回して2手に分かれ、日本海の洋上で合流して強い対流を発生させ雪雲を生じさせます。昨年末の大雪はJPCZが滋賀県付近にかかったために降ったものです。

そのJPCZですが、衛星画像でははっきり見られるのですが、実は日本海の洋上では観測されたことがなく、その構造がどうなっているのかは世界中の誰も知りませんでした。そのJPCZを世界で初めて洋上で観測しようというのが、耕洋丸第96次航海の目的の一つです。世界初の観測と言うこともあり、マスコミ（テレビ朝日）にも取り上げられました。

冬の日本海ですが、シベリアからの季節風が強いことから荒れていることが多く、有義波高が5mを越えることすらあります。写真は波をかぶった本航海中の耕洋丸の船首の写真ですが、この時で波高は4mに達していたと思います。そのような荒れた海の中にもかかわらず、今回の観測を行ったことで、世界初でJPCZの構造を捉えることができました。まさに科学者冥利に尽きると言えるでしょう。

学生の皆様もいつまでも古いものにとらわれず、新しいことにチャレンジするフロンティア精神を持って、この変動が激しい世の中を乗り切るようにしてください。



航海中に荒波をかぶった耕洋丸の船首

着任のご挨拶

海洋機械工学科 助教 吉村 英行

令和3年10月1日付で海洋機械工学科船用機関学講座の助教に着任しました吉村英行（よしむらひでゆき）と申します。

着任の挨拶ならびに自己紹介をさせていただきます。

私は大阪府門真市出身で、水産大学校海洋機械工学科を卒業後、同大学校水産学研究科を修了しました。

卒業後は株式会社朝日工業社という空気調和・衛生設備工事を行う設計施工会社に入社しました。ここでは皆様が当たり前のように入社しているエアコンやお風呂のシャワー、トイレなどインフラ設備を整備する業務に携わっておりました。「職人さん」と呼ばれる実際に作業を行う方々と連携して業務を進めていく必要があり、彼らとのコミュニケーションは非常に重要な業務の一つでした。出会った経験豊富な「職人さん」達からは、座学では学ぶことの出来ないような実践的な技術や経験を教えていただき、今でもその経験は私にとっては大きな財産となっています。

その後、ニッスイ・エンジニアリング株式会社（日本水産のグループ会社）に転職し、ここでは冷蔵倉庫の建設に携わりました。冷蔵倉庫と言われてもイメージが付きにくいかもしれませんが、大きな倉庫内部の空間を -25°C ～ -60°C といった極寒な環境に冷却し、水産物や肉、アイス等の冷蔵冷凍品を保管し、需要に応じて供給するという食品流通には欠かせない施設です。入社した2社ともに日々の業務は大変でしたが、数多くの同僚や会社様、担当者様との出会いは私の一生の宝物であります。

私の専門分野は「熱」に関する研究です。具体的には学生時代に取り組んでいた海洋エネルギーを有効利用する海洋温度差発電の研究やシステム構成機器である熱交換器に関する研究、社会人時代に興味を持った冷蔵倉庫に関する研究を進めていきたいと考えています。

母校で教育・研究者として新たな一步を踏み出しましたが、今までサラリーマン生活をしてきたため、教育という分野ではまだまだ経験不足ではあります。これから教育分野で知識・経験を積んでいき「先生」と言われても違和感がないような教育・研究者を目指していきたいと思っております。また、民間企業で培った経験や人脈は私の財産でもあるので、後輩達の教育に役立てていきたいと考えております。

何かと至らぬ点が多々あるかと思いますが、今後の水産業界の発展、将来を担う人材育成に貢献できるよう教育・研究活動に励んでいきたいと思っております。今後ともご指導ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。



HACCP 管理者の認定について

食品科学科 教授 前田 俊道

HACCP 管理者とは、HACCP システムについて相当程度の知識をもつと認められる者であり日本食品保蔵科学会が認定する資格です。食品科学科は、平成26年から在学生に対してこの資格の取得をサポートして参りました。その結果、令和3年までに228名の食品科学科の学生が HACCP 管理者として認定されています。

HACCP とは、Hazard Analysis and Critical Control Point（危害分析と重要管理点）の略語であり、発生し得る食品衛生上の危害を予測し、それを防止するために得に重要な工程を管理することにより食品の安全性を保障する手法です。多くの国の食品業者は HACCP を導入しています。日本でも食品衛生法の改正により HACCP が食品製造業者だけでなく取扱業者にも義務化され、猶予期間の終了に伴い令和3年6月から導入が必須になりました。

食品科学科では HACCP を平成12年から講義（平成12～18年度は食品衛生学Ⅱ、平成19年以降は科目名を HACCP に変更）に取り入れるとともに、食品製造学実習Ⅱにて水産大学校の食品加工実習工場でマグロの油漬け缶詰を製造しながら HACCP 計画をグループで討論して立案するという実習を行ってきました。その甲斐あって、学生が就職した水産食品会社から「水産大学校の学生は HACCP のことを実践的に理解していて驚いた。採用して良かった。」と褒められたこともありました。就職後だけでなく、就職活動中においても HACCP 管理者資格を履歴書に記載することで学生が自己PRできるように、食品科学科では毎年4月初旬に希望学生分をまとめて申請し、5月には認定されるようにしています。

HACCP 管理者を取得する方法は、日本食品保蔵科学会ホームページ（<https://jafps.smoosy.atlas.jp/ja>）の「HACCP 管理者資格認定制度」に詳細な説明がありますが、申請条件は①学会の個人会員であること、②学会が定める基礎科目認定者に該当すること、③学会が定める HACCP ワークショップ認定者に該当することを全部満たす必要があります。①については、手続きをして学会費（学生の年会費は1,000円）を支払えば入会できます。なお、管理者認定審査料に4,000円が別に必要です。②につきましては、殆どの食品科学科学生が3年生後学期末までに要件を満たしています。③につきましては、HACCP 委員会認定講師である私が担当する授業科目の HACCP と食品製造学実習Ⅱを修得していれば要件を満たします。前述の通り食品科学科は申請手続きを めてサポートしております。

食品科学科では、HACCP 管理者認定を希望する学生に対して、引き続きサポートして参りますので、希望する学生ならびに保護者の皆様におかれましては、連絡先等の個人情報の提供ならびに学会費や審査料のご負担につきまして、今後ともご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

雑種フグ調査について

生物生産学科 准教授 高 橋 洋

昨年1月10日に放送されたNHKのダーウィンがきた!生きもの新伝説「さかなクンと大研究!フグ最強伝説」はご覧になられましたでしょうか?海の温暖化により海洋生態系が劇的に変化する中で、いま下関の名産品であるフグに大きな異変が起きています。私が番組のエンディングで、気仙沼港の風景をバックに、MISIAさんの歌声に乗せてお話しした内容を、ここでもう少し詳しく紹介したいと思います。

フグに起きている異変、その一つは漁場の変化です。水産庁の統計によると、2010年頃までは概ね100トン未満だった北海道のフグの漁獲量が、2016年には700トン近くになり、都道府県別漁獲量で全国一位に躍り出ました。フグの仲間が本来熱帯や亜熱帯の海に生息することを考えると不思議な気がしますが、じつは高級魚トラフグをはじめとするトラフグ属魚類は、温帯域に進出したことにより多様化を遂げたグループです。その急先鋒が最も冷たい海に適応したマフグで、いま北海道の海で大量に漁獲されているのです。

もう一つは、異なる種間の交雑によって生まれた雑種の増加です。世界的に見ても速いペースで温暖化が進む日本海で、従来石川県などで多く漁獲されていたゴマフグの分布域が北上し、津軽海峡を越えて太平洋にまで拡がりました。その結果、2012年頃から、東日本沿岸で、もともと太平洋側にいたショウサイフグとの間で交雑が起き、フグのみならず、他の海水魚でも記録されたことのない規模で雑種が大量発生しました。

トラフグ属魚類は、北東アジア地域で短期間に多くの種に分かれた近縁種の集合体です。このような進化現象は適応放散と呼ばれ、その原動力の一つが種間交雑による遺伝的多様性の獲得だと考えられています。いま、その進化の最前線ともいえる日本の



気仙沼漁港での調査風景

海で、海の温暖化が引き金となったフグの急速な進化を私たちは目の当たりにしているのかもしれない。

フグを取り巻く環境が急激に変化する中で、フグ食の安全・安心を維持するため、厚労省は都道府県等ではばらばらだったふぐ処理者の認定条件の平準化を進め、また定期的に全国の雑種フグの発生状況を情報発信するとしています。水産大学校では、厚生労働科学研究費補助金を受け、今年度より全国各地の雑種フグの漁獲・流通状況の調査を始めました。もし調査先で私たちを見かけられましたら、ぜひ声をかけていただき、現地のフグ情報をお教えいただければと思います。

「最近の話題」

天鷹丸二等航海士 山 本 周 平



初めまして。令和3年度より天鷹丸二等航海士に着任しました山本周平です。

私は平成29年の4月に水産庁に入庁しました。最初の2年間は漁業調査船「開洋丸」に乗船し、様々な調査を行いました。その中でも特に印象に残っていることは南極海航海です。

南極海航海ではナンキョクオキアミの採捕を主軸とし、クジラ・鳥類の目視、南極海の固有水のサンプリングを行いました。元々、調査船に乗りたかった私にとってはとても刺激的な航海だったことを今でも鮮明に覚えています。

その後、漁業取締船「白鷗丸」に2年間乗船しました。業務としては主に韓国、中国その他外国漁船の違反操業抑制に努めました。日本で漁船といえば「マグロはえ縄」「イカ釣り」辺りが思い浮かぶと思いますが、外国では「虎網」「かぶせ網」等日本では見かけない漁法、船型をした漁船が操業しており、とても興味深い経験をしました。調査、取締といった全く違う種類の業務を行ってきたこともあり、就職してからの4年間は驚くほど速く感じました。

着任の挨拶と自己紹介はこのくらいにしまして、題目でもある「最近の話題」についてお話ししたいと思います。12月23日に専攻科の遠洋航海を終え、

令和3年度の航海が全て終了しました。遠洋航海といえば「天測計算」と「はえ縄操業」がメインの航海ですが、天候にも恵まれ、どちらも滞りなく無事故で行うことができました。ただこの航海で心残りだったことが2つあります。1つは去年よりマグロの漁獲が少なく「まぐろの漬け」が、1回しか食べられなかったこと。もう1つはパラオに寄港する予定でしたが、去年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響により外地へ入港することができなかったことです。今年の専攻科学生は4年生の遠洋航海でも外地へ行くことができなかったのも、最後くら

いは連れて行ってあげたかったと思いました。

天鷹丸に二等航海士として着任したこの1年間は、学生に実務を教えながら調査を遂行し、非常に忙しい年となりました。しかしながら学ぶことも多く充実した1年間でもあったと思います。2年目となる来年は、今年同様に水研調査を完遂し、自身の調査業務の更なるスキルアップを目指す過程で学生に調査業務の楽しさを伝えていきたいと思います。また、新型コロナウイルス感染症の収束を祈るとともに、今年実現できなかった遠洋航海での外地寄港を実現できればと思います。

就 職 活 動

就職活動を通して感じたこと

水産流通経営学科 4年 宮 下 大 知

私が、就職活動を通じて感じたことを今回は伝えたいと思います。

まず、始めるにあたって就職活動の準備を早い段階で始めることをお勧めします。これは、私自身準備を始めるのが遅かったという実体験から感じたことです。また、新型コロナウイルスの影響により、情報不足や周りのスピード感を感じ取ることが出来なかったため、同じ様な失敗はしてほしくないと思い、早い段階からの準備をお勧めします。

次に、必要だと感じたことは「自分の軸」を定めることです。就職するにあたって、自分自身で譲れない部分があると思います。志望業界、勤務地、給料、福利厚生など人によって様々な軸が存在します。この軸を定めるには、自己分析や企業研究を行うことが必要であり、多くの情報が必要になってきます。従って、企業説明会やOB・OG、就職支援室を活用し、自分の可能性を見つめなおすことをお勧めします。

就職活動という今まで体験したこのないことをすると思いますが、自分自身の選択肢を広げる良い機会であると、この就職活動を通じて感じました。辛いことや厳しいこともあると思いますが、皆さんが悔いの残らない就職活動を行えることを心から願っています。

就職活動を終えて

海洋生産管理学科 4年 田 中 舜 和

私は高知県庁（水産職）から内定をいただきました。地元である高知県の水産業に貢献することを目標に勉学に励み、今回、当初の目標を実現できる職に就けることとなりました。

入学後から公務員試験対策を意識しておりましたが、本格化したのは3年生の年明けからでした。筆記試験（6月）まで残された時間はあまりなく、過去問の傾向から要点を絞り対策を進めました。筆記試験後はすぐに面接試験（7月）対策として、自己分析と自治体研究に取り組みました。これらの対策

が遅れたことは反省点であり、余裕のない取り組みとなりました。一方で、普段から水産業への貢献を意識し大学で勉学に励んだこと、また並行して行った漁業関係機関への就職活動で得られた知見が本試験に活かされました。

最後に、私は就職活動の中で、クラス担任、研究室および就職支援室の教職員、さらに先輩や友人など多くの方に相談に乗っていただきました。1人で悩んでも物事を解決できない時があります。是非、周囲の方のご協力を頂いてください。真剣な取り組みと認められれば親身になって対応してくださると思います。それでは、目標に向かって粘り強く頑張ってください。

大学生活での成長

海洋機械工学科 4年 松 尾 政 為

私が大学時代にやってよかったと思う「多くの人とコミュニケーションをとること」について書きます。

まず就職活動の際には自己PRや学生時代に力を入れたことを書くことが必要です。その時に自分を客観的に見て、いいところや頑張ってきたことを考える時間が大切になってきます。

そこで私自身考えたときに力を入れたことがアルバイトでした。そこでよりコミュニケーション能力が身につきました。

例えば企業説明会では積極的に質問をし終わった後は話しかけに行き個人的に話をしてもらえ時間をもらったりというのを複数の会社で行っていました。このことは自分に大学時代に成長できたコミュニケーション能力がなければ難しいことだったと思います。また私はアルバイトで幅広い年代の人と接することが多く、その経験から就職活動の面接でも緊張することなく自分の思いを素直に伝えることができました。

自分の場合はアルバイトでしたが他にも学校、趣味、お酒を飲むときなど様々あります。その一つ一つを大切にしてください。就職活動の時、社会に出る時の自分のためになると思います。

それでは皆さんの就職活動や今後の人生が実りあるものとなるよう、心から祈っております。

当事者意識を持って、 就職活動を愉しむ

食品科学科4年 伊藤 俊 樹

私が就職活動を通して大切だと思ったものは、当事者意識です。就職活動は一生を左右する一大イベントであるにも関わらず、あまり準備や対策も出来ないまま説明会が始まる時期を迎えがちだと思います。実際に活動する、就職するのは自分なので、いかに早くに就活生であるという自覚を持てるか否かが勝負の分かれ目であったと感じております。

私人身も、当事者意識が高まるにつれ、自己分析、企業研究、SPI 対策等が徐々に楽しくなり、成果もあがり易かったと記憶しています。筆記も面接試験も、やはり本番という形で場数を踏んだ方が慣れてきます。場慣れという面でも早めの動機付けと行動が重要だと実感しています。

ただし、早く動いて早く決めればよいというものでもないと思います。私は、大学3年の12月に早期選考で内定を得ましたが、それ以降も多数の興味のある企業にチャレンジし、最終的により理想に近い企業から内定を頂けました。就職活動は、偏差値などに縛られる大学受験とは異なり、膨大な選択肢と可能性があります。オンラインが主流化した今日では、従来よりも多くの企業に応募することが可能です。私も自分の理想と可能性を追求することで、納得のいく就職活動を行うことができました。

最後に、自分の人生を決めるのは自分ですが、孤独になる必要はないと思います。友人や先生の協力を得ながら、本気になって頑張ってみてください。覚悟や懸命さは顔に出ます。それは Web 面接の画面越しでもきっと伝わると思います。

就職活動を終えて

生物生産学科4年 西田 采 知

私は、食品商社から内定を頂くことができました。私が就職活動で体験し、感じたことを紹介させていただきます。

私は、就職活動の準備を十分に行えず、就職を目指す企業の方向性などが曖昧なまま大学3年生の3月を迎えてしまいました。多くの企業でエントリーが開始され、書類提出や面接が始まっていきました

が、就職活動の当初は方向性が定まらず、迷いがあったことを覚えています。また、新型コロナウイルスの感染状況により、直前で、面接の日程が変更になったり、対面から Web での面接に変更になったりしたことも記憶に残っています。

私が就職活動を終えて感じたのは、準備することの重要性です。自己分析や業界・企業研究はもちろん必要な準備です。さらに、SPI や一般常識などの試験対策、そして、このような時代だからこそ Web 面接の対策も必要だと思いました。企業の方と直接お会いして自分をアピールする機会が少ない状況だったので、こういった1つ1つの対策が最終的に自分の評価に大きく影響したのではないかと感じました。先の見えない毎日が続きますが、後輩の皆さんが悔いのないよう就職活動を終わられることを心から願っています。

就職活動を始める準備

専攻科 船舶運航課程 甲斐田 颯 斗

私は就活で一番大切な事は？と聞かれたら「入念な準備」だと答えます。準備は自信に繋がり、自信は顔の表情や態度に現れます。私は大学4年次から就活を意識して動き出しましたが、もう少し早ければ良かったと思います。

専攻科志望の4年生の流れは、前期に講義や卒業研究・定期試験、10月から翌年2月まで遠洋航海実習が行われます。そのため乗船実習が終わると早い人はすぐに就活が始まるため時間の余裕がありません。ですので、海技試験やTOEICなどの資格試験は早い内に取り組むことをお勧めします。特に海技試験は学年が進むにつれ専門知識が増え、学習しやすくなりますが、時間に比較的余裕のある2、3年生の内から取り組むべきです。

就活が始まると企業説明会やESの作成、面接対策などやるべき事が多々あり、4月からは乗船実習も始まり就活と実習を並行して行わなければならない、また将来に対しての不安から心身共に辛くなる人が多いと思います。私も周囲と比べ内定が出るのが遅かったため苦しい時期がありました。しかし、筆記試験や面接の対策を日々行い、努力した成果が結果に繋がりました。皆さんも悔いのない結果が残せるように全力を尽くして下さい！

図 書 館

読書感想文コンクールについて

学生部図書課 課長 和田 律 子

図書館では読書や図書館利用を促すきっかけ作りと文章力向上の機会提供を目的として毎年秋に読書感想文コンクールを実施しており、令和3年度で第10回目となりました。コンクールの開催はまず課題図書選びから始まります。学生に読んでほしい本、

海や川、魚、船などが舞台となる本などを日頃から本に接している図書館職員を中心に、数ヶ月かけて選びます。本は内容だけでなく感想文の書きやすさ、本の大きさやページ数（持ち帰りやすさ、読みやすさ）も考えて選びます。このようにして選んだ本を各学科教員で構成された図書委員会に諮り、5冊程度を課題図書に決定し、公表します。応募期間中はポスターを張り、課題図書は図書館入り口付近に置いて関心を持ってもらうようにしています。2ヶ月



後、応募作品を審査員6名で審査します。作品は毎年力作揃いですが特に今回は全体的にレベルが高く、優劣つけ難い作品ばかりでした。審査の結果、最優秀賞は食品科学科2年生の川嶋麗さん、優秀賞は海洋機械工学科2年生の大久保歩さん、奨励賞は食品科学科4年生の酒井優衣さんに決定しました。課題図書は傾向が異なる本を揃えています、自分事として考えらえる内容の本を選ぶ学生が多く、自分を見つめ直すきっかけにもなっているようです。図書

館では他にも学生からのリクエスト本の受け付け、就職活動関連本や各種試験対応本、文学作品等の配架、学習スペースの設置などを行っています。人との接触機会が少ない今こそ自分と向き合い、充実した学生生活を送るためにも図書館を大いに利用してほしいと思います。



学生部だより

水産大学校を卒業して

水産庁資源管理部 林 葉月(旧姓：川崎)

私は平成26年3月に水産流通経営学科を卒業しました。私は長崎県にある離島で生まれ育ち、島民の多くが漁業者であったこともあり、将来は水産業界をより良くするために何かお役に立ちたいと考え、卒業後は水産庁に入庁しました。

入庁1年目は、主に漁業調整や指導及び監督を行う部署に所属し、担当の漁業種類は大臣許可漁業である、『さんま棒受網漁業』と『いか釣り漁業』の担当となりました。特に印象的だったのは、さんま棒受網漁船の設備の指導及び監督のために、北海道の根室や釧路に出張に行ったことです。さんま棒受網漁船を初めて見ましたが、他の漁船とは違い、船体から集魚灯がたくさんの羽のように伸びており特徴的でした。実際に漁業者さんとお話を伺ったり、さんまの水揚げを見させてもらったり、貴重な経験をさせていただきました。そして、実際に現場の声を聞くこと、現場を知ることの大切さを感じました。

現在は、主に国際交渉を行う部署で、東アジア地域での2国間交渉の担当班に所属しております。日頃から国際情勢に関するニュースや担当国の政府機関が発出する通知等を確認しながら、アンテナを高く張り仕事に取り組んでいます。各国とは分かり合えない部分も多く、複雑でとても難しいことばかりですが、大きなやりがいを感じています。

最後に、在校生の皆さんへ、あまり偉そうなこと

を言える立場ではありませんが、就活においては程良く力を抜いて取り組むと力を最大限に発揮できるのではないかと思います。私自身、変に力が入り過ぎるタイプで、面接官に『もうちょっと力を抜いて大丈夫だよ』と、言われたことがあります。

水産業界は良い意味で『狭い世界』だと思います。今後、もしかしたら、水産大学校の出身の方や先生方と仕事で一緒にさせてもらう機会があるかもしれません。その時は、どうぞよろしくお願いします。水産大学校の益々のご発展を心よりお祈りいたします。



海洋調査船運航に携わって

日本海洋事業株式会社 三等航海士 久須美 桂 佑

私は2019年3月に専攻科船舶運航課程を修了し、日本海洋事業株式会社に航海士として入社いたしました。弊社では主に、国立研究開発法人海洋研究開発機構(JAMSTEC)様が所有する各調査船及び調査機器の運航を受託しております。本稿執筆時点においてこれまでに「よこすか」「かいいい」「新青丸」の3隻に配乗され、最近では臨時ではあるものの二等航海士を務めることもあります。

弊社で運航している船は調査船ということもあり、「走らせる」ことの他に「止める」ことも重要となってきます。ある程度までは操船方法についての目安がありますが、気象・海象は常に変化をしており、その時の状況に合わせた判断力やセンスが問われてきます。実際私自身も、当初は試行錯誤しながらも観測にあたっていました。現在では経験が浅いながらも適切な判断・操船が出来るようになってきたと実感しております。また、船によってはDPS(ダイナミック・ポジショニング・システム)を搭載し、非常に正確かつ自在に船を運動させることが可能となり、基礎的な知識・技能は必須ですが、個人のスキルに依存しない操船が可能となってきました。

さらに「しんかい6500」(以下、6K)の観測では、運航の他に「スイマー作業」というものもあります。これは6Kを着水・揚収する際、「スイマー」と呼ばれる作業員が小型艇で近づき、6Kに移乗して吊り上げ索の着脱作業を行うというものです。海中に飛び込んでから移乗しますので、非常に危険を伴いますが、それと同時に作業中は「スイマー」のみに注目がされ、観測の花形となります。作業にあたる際は非常に緊張しますが、無事に終えた時は充実感で満たされます。

最後になりましたが、学生のうちはいくら失敗しても取返しがつきます。是非、恐れずにたくさんの方に挑戦し、経験を深めてみてはいかがでしょうか。



私の仕事

伊那食品工業 営業部 窪 田 暉

皆さん、普段の生活で「寒天」を食べる機会がありますか。寒天は、紅藻類を原料とした食品です。海藻をぐつぐつと煮込み、その抽出液を冷やし固めたもの(ところてん)から、水分を取り除いて作ります。羊羹や琥珀糖など、和菓子の材料として使われるイメージばかりかもしれませんが、それ以外にも、洋菓子、飲料、乳製品、調味料などの食品、化粧品、培地、カプセルなど幅広い分野で利用されています。最近では、寒天で作った可食性フィルムが、プラスチックごみの削減に貢献できる地球に優しい商品として注目されています。

私は、食品科学科を卒業した後、水産学研究科へ入学し、ヒスタミン食中毒の予防について研究しました。大学での6年間の学びは、私の食への関心をさらに深め、食品業界への就職意欲を確固たるものにしてくれました。最終的に、会社の経営理念や「寒天」の可能性に魅力を感じたため、伊那食品工業(株)へ入社しました。

弊社では、粉末寒天の他、種々の増粘多糖類を用いた様々なミックス粉製造販売も行っています。粉末寒天だけで100アイテム以上、さらに、ミックス粉商品が800アイテム以上あります。また、デザートや素や多種の寒天商品を販売する「かんてんぱぱショップ」も全国に展開しており、ファンづくりに力を入れています。

現在私は、営業職として、お客さまのお困りごとに即した商品の提案をしています。毎朝みんなで行う始業前掃除から一日が始まり、ショップへ来店されるお客様に気持ちよく過ごしていただくための準備をします。様々な業界のお客様がいらっしゃることで、商品知識のみならず、いろんな業界について動きや知識を学んだり、周りの先輩方、本社の研究員にも相談したりしながら仕事を進めています。まだまだ私の仕事は発展途上ですが、寒天の可能性を自ら進んで探究したり、PRしたりすることができる環境に、楽しさとやりがいを感じています。

以上、私の仕事について紹介させて頂きました。

在学生の皆さんの将来設計の一助になれば幸いです。水大生の皆さんが自分の生きたい未来をしっかりとイメージして、納得のいく企業選択ができることを祈っています。





水大学園だより

国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産大学校 〒759-6595 下関市永田本町2丁目7-1 電話083(286)5111
ホームページ <http://www.fish-u.ac.jp> [発行] 学生課

校長あいさつ

校長 下川 伸也



本年4月より水産大学校校長の重責を担うことになりました。辞令交付後の6日には令和4年度入学式が挙行され、本科185名、専攻科及び水産学研究科を含め243名の新入生を受け入れるとともに校長の初仕事として式辞を述べ、新年度のスタートを切りました。

今年度は、前学期の講義を対面方式で実施することを基本とし、感染予防策には万全を尽くすとの前提のもとで、寮生の諸行事、オープンキャンパス、高校生の見学希望者受入ほか可能なものから対面での実施を進め、各種の行事を開催しています。7月に入り新型コロナウイルス感染症の“第七波”が学生諸君の一部にも拡大し対応に追われましたが、なんとか前学期の授業期間も終了し平常に戻りつつあります。さらに、現下の課題は、ポストコロナを見据えたオンラインの利用拡大もはかり、対面・遠隔授業の最適な運用による授業の高度化を目指すことだと考えています。AI、ICT等を活用した教育効果の向上と同時に、データサイエンス分野の充実を通して、水産政策を支える「スマート水産業」の推進についても取り組むべき課題だと考えています。

これまで、コロナ影響が現れはじめた令和2年度から、授業を遠隔方式で行えるよう学生・教職員ともども整備を進めてきました。一方、乗船実習、学内外での実験・実習、卒論・卒研などについては、代替の内容や実施方法・時期などの見直しを行い、状況に応じた授業を実施してきています。これまで、水大では実学を尊重することを校是に掲げてきており、水産現場の最前線で活躍する人材の輩出のために、コロナ禍にあっても実習成果が十分に得られるよう配慮し、安全対策も含めて最善を尽くした

授業が行われるよう努めています。さらに、練習船“耕洋丸”、“天鷹丸”がそれぞれ4年生、専攻科生に対して行う遠洋航海実習でも、寄港を予定している外国港湾において様々な入国制限措置が取られており、残念ながら今年度の航海でも寄港断念を続けることになりました。課外活動については、2年3ヶ月に及び活動停止となってしまいましたが、本年7月からは段階的に活動再開を図れるよう支援を始めました。(但し、北九インカレは、今秋のシーズンまで競技会中止が決まっています)学内の多岐にわたる部活のうち、部員のほとんどが入学後に初めて取り組む競技の部活動や水大の特色となる部活動などは、コロナ禍前の賑わいを取り戻せるよう全力で支えたいと考えています。

さらに、本校は国立研究開発法人水産研究・教育機構の人材育成業務を担う部門として、機構業務の一翼を担っています。今期は第5期中長期計画の期間5ヶ年のうちの2年目となっています。同計画では、「水産基本計画」や「水産政策の改革」等の水産政策の実現に寄与することを目指し、水産に関する学理・技術の教授とこれらに関連する研究を実施することを目標に掲げています。具体的には、○水産資源の適切な管理と持続的利用に寄与する人材育成、○水産生産技術の開発や社会実装に寄与する人材育成、○水産に関する広範な知識を有する水産技術者・海技士の育成の3つを柱に据えて進め、水産業を担う中核的な人材育成を推進することとしています。

以上、コロナ禍にある水大の現状と課題を概説させていただきました。荒波の中ではありますが、水大は自他共に認める風光明媚な吉見の地で自然豊かな環境を活かし、水産学の基礎を身につけ、ここから巣立っていく水大生諸君が、文字通りの母校として誇れるような学園づくりに邁進する所存です。私自身、浅学非才ではありますが、専ら持ち前の気力と体力を頼りに、弛まず頑張りたいと思います。保護者の皆様はじめ関係各位には、今後ともご支援とご理解を賜りますようお願い申し上げます。校長就任のご挨拶といたします。

最近の話題

着任のご挨拶

水産流通経営学科 講師 佐々木 浩子

本年4月に水産流通経営学科に着任しました佐々木と申します。専門は国際法(国際公法)です。高

校生の時に戦争関連の報道で目にした‘国際法’に興味をもってから、幸いなことに大学院後期博士課程を経て現在まで研究をしています。国際法は国家間関係を規律する法(現在では国際社会の法とも言われます)で、国と国との合意によって作られるものです。その中でも、現在私は主に海の分野の国際

法(海洋法)を研究対象としています。

水大では共通教育科目「国際社会と法」や専門科目「海洋法」などの授業を担当しております。アンケートをとったところ、「社会は苦手」とか「暗記系はダメ」といった回答が多くありましたが、上記授業はひたすら暗記をするという科目ではありません。もちろん、重要項目は知識として頭に入れておく必要がありますが、国際社会の成り立ち・情勢や日本との関係、法の存在意義などを理解し、物事を自分なりに考えられるようになることが大切です。

新型コロナウィルスが船や飛行機を通して日本でも流行しているように、ロシアによるウクライナ侵攻によりロシア産エネルギーが日本に入っていないのではと懸念されているように、遠い国で起こったことが私たちに影響を及ぼすことがあります。影響を直に感じなくとも、例えばコーヒーや衣類など私たちの身の回りにあるものの多くは海外の人々によって作られ(水大生より幼い子どもたちが学校に行かずに作ったものかもしれません)日本に輸入されており、私たちの生活は日本だけで完結しているのではなく、様々な国や人とつながって成り立っていることが分かります。こうした国境を越えた交通や貿易、人の往来や労働環境などには様々なルールがあります。また、水大生の専門性に関係する水産資源の管理、船舶の航行、海洋調査などにも様々なルールがありますが、これらルールは国際法にしたがって定められています。国と国の合意である国際法が水大生の専門分野にも関係しているのです。

すでに、授業を熱心に聴き、授業やニュースで疑問に思ったことを質問してくれる積極的な学生もありますが、一人でも多くの水大生が上記のような一般教養や水産全般に関係する基本知識を習得し、物事を自分なりに、大きな視点から考える力を身に付けられるよう尽力してまいりたいと存じます。皆様のご指導、ご鞭撻の程宜しくお願いいたします。

世界を相手に

— 日本海洋学会日高論文賞受賞

海洋生産管理学科 教授 柏野 祐二

このたび、日本海洋学会から2022年度の日高論文賞をいただくことになりました。この賞は戦前である1941年に日本海洋学会を設立するなど日本の海洋学の発展に大きく貢献した日高孝次先生にちなんで設けられた賞で、学会の定期刊行物に発表された優れた論文、特に英文誌 Journal of Oceanography (2021年のインパクトファクターが2.000)に掲載された論文に与えられるものです。今回受賞した論文は2020年に Journal of Oceanography に掲載された "Temperature and salinity variability at intermediate depths in the western equatorial Pacific revealed by TRITON buoy data" (トライトンブイで観測された西部熱帯太平洋の中層海洋における温度・塩分の変動について) です。

西部熱帯太平洋はエルニーニョ現象において重要な役割を果たす、世界で最も海面水温が高い暖水プ

ールが存在する海域です。今回の賞をいただいた研究では、暖水プールの下の深さ300m～750mの中層海洋の変動を、14年にわたる時系列観測の結果を用いて調べたもので、たとえば、塩分に減少傾向が見られることや、エルニーニョ現象の影響がこの深さまで及んでいることを明らかにしました。なお、観測は海洋研究開発機構の海洋地球研究船「みらい」や海洋調査船「かいよう」を用いて、重さ2.4トンもある大型のトライトンブイという海面ブイを海に設置して行うのですが、1年～1年半に1回の頻度でメンテナンスの作業のため、船で当該海域に出て回収・再設置という作業を行う必要があります。そのために水産大学校に赴任する前(2017年より前)は、この頻度で1か月～1か月半船に乗っていました。通算乗船日数は600日を越えています。

この海域は当然ながら日本の経済水域の外であり、そこで観測するにはインドネシア・フィリピン・パラオ・パプアニューギニア・ミクロネシアといった国々の許可が必要となります。また、この海域には米国・中国・韓国も興味をもっていることから、これらの国々と調整しながら共同で観測することになります。さらには、観測結果は国内の学会は当然ですが、国際学会の場で発表することになります。つまり、世界を相手にした仕事となります。このため、水産大学校に赴任する前は世界中を飛び回って仕事をしていました。それは大変でしたが、また楽しいものであり、さらには世界を相手にして戦っているという高いモチベーションを持って仕事ことができました。

写真はトライトンブイのメンテナンス航海「みらい」MR11-06航海の記念写真です。この航海は日本の他に、米国・中国・インドネシア・フィリピンから研究者が乗船する航海で、私はその多国籍軍の指揮官(首席研究員)という立場で参加しました。

学生の皆さんも、卒業しましたら世界を相手に頑張ってください。



着任の挨拶と学生へのメッセージ

海洋機械工学科 講師 新居 慶太

初めまして、令和4年4月1日付で水産大学校海洋機械工学科に着任しました、新居 慶太(にいけいた)と申します。私は、名古屋大学大学院 素

粒子・宇宙物理学専攻 E 研（素粒子論研究室）において博士課程を修了し、国内外での博士研究員を経て、水産大学校に講師として着任しました。主に、学部1・2回生向けの講義（力学や熱力学など）を担当することになるので、新入生の方々との交流の機会が多いと思います。今後とも、よろしくお願い致します。



高校では、いわゆる“文系・理系”という棲み分けがあると思いますが、本大学には文理両方の生徒が入学すると聞いています。一方、私の担当する講義は全学科必修だそうなので、文系畑の人間であっても基礎的な物理・数学は理解して欲しいという大学の思惑があるのかもしれませんが。近年、企業においても理系人材が非常に重要となっている現状を鑑みるに、学生の皆さんが文理によらず一定の数理的素養を身につけることは今後重要だと思います。物理学は数学と共に発展してきた学問なので、物理学だけでなく数学も一緒に力をつけてもらいたいです。

とはいっても、使いもしない物理や数学を勉強するのはモチベーションを保てないかもしれません。ここでは、基礎的な物理・数学の重要性を強調したいと思います。まず初めに、数学で学ぶ微分方程式は社会・経済を始めあらゆるものを数理モデル化した際に必ず現れます。また、力学で学ぶ惑星の運動は、人工衛星などの軌道を知る上で重要です。熱力学は内燃機関（エンジン）や冷蔵庫・エアコンの原理を理解する上で重要です。このように基礎科学には様々な応用が広がっています。また、私の研究分野である素粒子論（物質の最小構成要素を探究し素粒子間に働く力を研究する学問）は、ここで紹介した力学や熱力学などの基礎物理学の上に成り立っています。もちろん、将来こういった内容とは無縁な職に就くかもしれません。しかし、大学で学んだ知識が少しでも頭に残っていれば、自分にとって未知の分野であっても、ある程度理解した気になることができます。また、大学で得た知識というのは思わぬ所で生きてくるものです。

授業では私の研究分野の話なども交えつつ、高校で文系選択であった方々にも理解できるような講義を展開しようと考えています。新型コロナの感染拡大が中々収まらず、羽を伸ばしにくいとは思いますが、文武両道ということで、友人と共に大学生活を大いに楽しんで下さい。

かにを使わずにかに風味かまぼこを 創る ―卒論研究から市販品へ―

食品科学科 准教授 臼井 将 勝

かに風味かまぼこ、通称「かにかま」は、水産分野でなくとも言わずと知れた人気食品です。今日では、見た目と食感を中心に本物のカニと見間違える

ほどの商品も複数あり、テレビ番組でクローズアップされることもしばしばあります。元々、高級食材の「蟹」を安く手軽に疑似体験または代用できることでヒット商品となった「かにかま」ですが、かに風味を再現するために欠かせない香り付けに「かにエキス」や「かに肉」を使用しているために、甲殻類アレルギーを有する方は食べることができません。「かに」の代用品は沢山あり、目覚ましい進化を遂げているのですが、甲殻類アレルギーを有する方は、その代用品も食べることができませんでした。

私共の研究室は甲殻類アレルギー対策に取り組んでおり、目標は「甲殻類アレルギーを有する方に、もう一度「えび」や「かに」を食べて頂く」ことです。実は約10年前の卒論研究において「かにを使わなくても、焼いたら「かに」の香りがする魚肉ソーセージ」を作る方法を見出し、上述の問題を解決できる糸口を掴んでいました。アミノ酸と糖の間に生じるメイラード反応という現象を応用したもので、副産物的に生じる香気をアミノ酸の配合によってデザインし制御することで、「かに」を連想する香りを作り出します。パンやクッキーを焼いた時の香ばしさもメイラード反応によるもので、食品の加熱加工では教科書的反応です。アミノ酸と糖を混ぜて焼けば、かに風味の魚肉ソーセージが完成！甲殻類アレルギーを有す方でも一般的な蒲鉾を食べることができる方なら大丈夫！という単純明快な技術なのですが、世の中に出す機会が得られず停滞と苦難の時代が続きました。好機到来と、本校と山口県の水産共同研究事業にて同技術を提供・公開するも実用化に至らず、最終的には「そもそも蒲鉾を焼く必要があるのか？そんなに焼きたいなら餃子でも造ったらどうだ」などの罵声を浴びたほどでした。

「産官学連携」という言葉がありますが、やはり「学」と「官」では技術は作れても社会に実装することが困難でした。しかし、これを痛感して終わるわけにはいきません。そこに現れた救世主が下関の蒲鉾製造販売の老舗、有限会社村田豊商店の若社長であり職人の村田賢二郎氏。同氏との連携により、技術の現場への実装、商品化に向けた追加の技術開発が開始されました。そこから約3年半、改良と進化を重ねて特許申請を完了し、本年2月18日に村田豊商店から「かにを使わずにかに風味かまぼこ」を発売して頂くことができました。

商品の詳細な説明は同店通販サイトや機構広報にお任せすると、この場を



お借りして、本稿寄稿の最大目的である永年の開発研究に協力して頂いた卒論生の皆様へ最大限の感謝をお届けしたいと思います。豊本君、眞武さん、岡田さん、崎村さん、仲戸さん、恩塚君、遂に完成したよ！皆さんの努力と熱意のお陰です。本当にありがとうございます！

最後になってしまい恐縮ですが、様々な場面にてご支援を賜りました関係者各位にも厚く御礼申し上げます。

着任のご挨拶

生物生産学科 助教 大 戸 夢 木



令和4年4月1日に生物生産学科生物環境学講座に着任いたしました、大戸夢木と申します。私は、京都大学農学部資源生物科学科を卒業後、同大学大学院理学研究科において修士、博士号を取得しました。その後、九州大学大学院農学研究院にて学術研究員および

助教を務め、本校に助教として着任いたしました。上述のとおり、水産科学と理学分野をせわしく渡り歩いてきたわけですが、専門である魚類生態学の研究を一貫して行ってきました。

私の研究キーワードは、魚類や甲殻類などにおいて海と川を行き来する生活史特性を示す「通し回遊性」です。もしかしたら、サケ・マス類に代表される遡河回遊性やウナギ類に見られる降河回遊性という言葉の方がなじみ深いかもしれません。通し回遊性というのは、これら様々な回遊形態の総称です。私は両側回遊魚（仔魚が成長のために川を下る魚類）と降河回遊魚（産卵のために川を下る魚類）を対象に、なぜ、そしてどのようにして彼ら／彼女らは海や川へ旅するのかを明らかにしています。また、回遊の成功にはどのような環境条件が必要なのかを理解することで、希少種や水産重要種を多く含む通し回遊魚の保全方策の構築を目指しています。

水産大学校の所在する下関市は、様子の異なる三つの海に面しています。それぞれの海に面した地域の間では、河川にのぼってくる通し回遊種の種組成や個体数にかなりの違いがあるようです。当然、通し回遊種の組成が異なれば、河川生態系の構造も変わるはずです。このように、海洋と河川の生態系は密接に関連しており、双方を保全することで初めて水圏全体を健全に保つことができます。私は、この地の利を生かし、通し回遊魚の生態の理解や保全に直結する研究や教育にとどまらず、通し回遊魚の存在が河川内の魚類群集や生態系全体にどのように作用するのかを理解し、水圏生態系の包括的な保全やこの啓発に少しでも役立てたらと意気込んでいます。

上述のように、研究面ではそれなりに経験を蓄積してきましたが（それでも7年と少々）、学生教育

に関してはほぼ素人の状態です。講義や実習については、ティーチング・アシスタントを通じた経験が僅かながらあるものの、研究指導は全くの初めてです。着任後に早速研究室配属があり、手探りで学生との関係構築を図っているわけですが、常に学生目線を意識し、自由闊達なやりとりを通じて、水産業界・学会で輝く論理性、文章力、行動力の涵養を図っていくつもりです。また、教育経験を、自身の教養の深化や人材育成能力の向上に活かすことができればこれ以上の喜びはありません。末筆ながら、みなさま、ご指導ご鞭撻賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

着任のご挨拶

耕洋丸 参席三等航海士 藤 岡 七 瀬

こんにちは。令和4年4月より耕洋丸参席三等航海士に着任しました、藤岡七瀬と申します。よろしくお願いします。

私は昨年度まで専攻科生（船舶運航課程）として水産大学校に通っていました。大学で海や船、漁業について学んでいくにつれて、調査船に乗りたいという思いが強くなり、水産研究・教育機構に就職しました。耕洋丸は4年生の遠洋航海で長い期間乗船していたため配属が決まった時には嬉しさと、学生に教える立場になるという不安との両方がありました。実際に航海士として働きだすと、学生で学んできたことと、それ以上に知識や経験値が必要となることが多く、学生の時よりも自分から勉強をするようになったと感じます。

就職してから数回航海を経験しましたが、学生として乗船していた時とは違い、責任が大きくなり1ワッチへの準備や気合の入りが大きく変わりました。また、学生に船や当直、航海士としての技術を教えることで、自分自身も勉強になっています。調査の際には、CTD 観測操船や定点保持は学ぶことがとても多く、楽しい日々となっています。また、ドックでは普段参考書や写真でしか見たことのなかったものや作業を多く行い、毎日学びが多く、とても楽しいです。ドライドックで実際に舵を動かしているところを渠底から見たり、タンクの中へ入ったり、膨張式救命筏を展開したり、普段なにげなく使っているところの修繕や清掃などをたくさん経験することができ、航海士としての魅力を大いに感じています。

最後に、まだまだ新人の私ですが、耕洋丸で皆さんがより一層充実した実習をお送りできるよう頑張っていきますので、今後ともよろしくお願いいたします。



在校生の声

『新たな出会い』

水産流通経営学科1年 益山 尚士

大学生活が始まって4ヶ月、今年はコロナの影響は少し収まり、水産大学校の行事や実習等がコロナ感染対策をしつつ一部を除き行われました。オンライン授業も少なく4月から友達を作り、毎日楽しいことや驚くことに満ち溢れています。また、寮の先輩方や友達から様々なことを教えてもらい、新しい生活にも慣れてきています。

私たちはこれから水産大学校で様々な実習、高校時代では習わなかった新しい分野の講義をとおり、たくさん学び、経験を積んで成長していきます。また、勉強だけではなくバイトや新しい趣味に挑戦したり、クラスメイトとの絆を深めたり、水産大学校で過ごす時間を無駄にすることなく日々成長していきたいです。

私はまだ将来の目標を立てることが出来ませんが、進路を決める際に困ることが無いように多くを学び、将来水産大学校で学んだことを生かしながら、日本の水産産業を支えられる人材になれるように頑張ります。まだまだ大学生活に慣れず、分からないことが沢山ありますが、クラスメイトや教員の方々の力を拝借し鋭意努力する所存です。未熟者の私たちですが、胸を張って水産大学校を卒業できるよう、日々精進していきます。

対面授業の良いところ

海洋生産管理学科2年 中村 みずほ

今年度はほとんどの授業が対面で行われ、毎日友達と会うことができます。

昨年度はオンライン授業の期間が長く、毎日一人で勉強しなければいけませんでした。わからないところを友達に聞きたくても、対面のときのように気軽に聞くことができませんでした。特に初めての水産科目はわからないことが多く不安でした。

しかし、今年度は友達と授業を受けることができ、毎日楽しいです。2年生になり、授業内容は難しくなりましたが、友達と教え合って勉強できることは幸せだなと感じました。また、1年生よりも水産に関する科目が増え、将来のことを想像しながら授業を受けると非常にわくわくします。

私は海が好きで、将来は航海士になりたくて水産大学校に入学しました。海洋や船舶、航海など、将来に繋がると実感できる授業を受けることができ、とても充実しています。上級生になればさらに専門的なことが学べると思うと非常に楽しみです。1月には乗船実習もあります。多くのことを経験し、普段の授業では学べないことをたくさん吸収したいです。また、船からの景色を存分に楽しみたいです。これからは学校の勉強以外にも、TOEICや海技士

試験にも挑戦し、将来のために時間を有効に使っていきます。

当之无愧に感謝

海洋機械工学科3年 喜山 直紀

新型コロナウイルスが世間に多くの試練をもたらして早二年が経ちました。入学当初、対面での講義、サークル活動、友人との交流が行える状況ではなく、思い描いた学生生活を送ることができませんでした。現在、大学三年生となり一、二年生時のオンライン授業とは違い対面での講義が増え、先生方や友人、後輩との交流する機会が増えました。コロナ禍で厳しい状況ではありましたが、一年生では海技実習、二年生では一週間の乗船実習を終えることができました。実習を通して初めて会う学科の人と親交を深めたり、協調性を育んだりすることができました。さらに、同じ志を持つ仲間存在に改めて気付くことができ、自分自身も目標に向かって頑張ることができています。就職活動が進んでいく中で、先生方が親身になって相談に乗って下さっていることに有難みを感じ、恵まれた環境に身を置けていることを実感しています。また、寮での役員を通して、寮長をはじめとした寮役員や学校関係者、食堂の方などが支えてくださっていることで、安心して寮生活を過ごすことができていることに気付かされました。私は、この先も多くの方々が支えて下さっていることを忘れず、一つ一つの行動に責任や目的を持ち、今できることから意欲的に取り組んでいきたいと思っています。

感謝

食品科学科1年 河口 晴香

水産大学校に入学し、数ヶ月が経ちました。期待と不安が交錯しながら始まった学生生活でしたが、今日では進学して良かったと感じています。本校には全国各地から人が集まっていて、いろんな人と話すことで毎日刺激をもらっています。1年生の授業は一般教養が中心ですが、水産に関する知識を身につける授業もあります。これらの授業では初めて知ることが多く、見聞が広まり意欲的に学んでいます。

また、ひとり暮らしをはじめて大きく意識が変わったことがあります。それは親のありがたさを改めて実感したことによる両親への想い、感謝です。アルバイトをする中で、働いてお給料をもらうことの大変さを、そして、日々の暮らしを支える家事の大変さを実感しました。両親が毎日してくれていたことを当たり前だと思っはいけないと気づかされました。今では、長期休みでしか実家に戻れませんが、帰省した時には自分にできる事は率先して行おうと思うようになりました。

進学させてくれた両親には感謝しかありません。この気持ちを忘れず、これからもしっかり勉学に励みたいと思っています。

コロナ禍の大学生活を振り返り

生物生産学科2年 窪田伊里

私が水産大学校に入学して1年と半年が経ちました。入学当初は対面での授業をすることができました。しかし、昨今のコロナ情勢などで1年半の間で突然リモート授業になったり、対面授業になったりなどと振り回される学校生活でした。そんな中でも臨機応変にその状況での最善を尽くすことが大事であることを学ぶことが出来ました。コロナ禍で行動が規制されていたとしても、友達を作り、バイトを見つけ、先輩と関わることができました。さらには、リモート授業の際は家で授業を受けるため対面授業より集中力が持続しにくいということはありませんでしたが、自分のペースで進めることができるため時間を有効に使うことが出来ました。また、私は1年生の夏、2年生の春と夏の計3回実習をしました。それらの実習では専門的な実習内容に取り組むことができ、学科の皆とも仲良くなることができたため、非常に有意義な時間を過ごすことが出来ました。

2年生になり、専門分野の本格的な授業が増え、授業内容は難しいですが、非常に興味深く、楽しんだ大学生活を送ることが出来ています。私は研究職に就きたいと考えているため、専門分野の授業に力

を入れ、将来に役立つように勉強を頑張り、今後も充実した大学生活を送りたいと思います。

研究科に進学して

水産学研究科1年 水産技術管理学専攻
中野亜紀

私は昨年海洋機械工学科を卒業し、水産技術管理学専攻の機関工学専攻分野に進学しました。現在は熱流体工学研究室に所属し、液体窒素を用いた極低温流体に関する現象について研究を行っています。

私が研究科に進学した理由は、更なる研究経験を積みたいと考えたためです。学部4年生で初めての研究に挑んだ際に研究の楽しさを知り、同時に自分の知識不足を痛感しました。そこで研究科に進学し、卒業研究という短期間では培われない、高度な研究技術、広い視野を身につけるとともに、専門性を深めたいと考えました。

研究科に進学すると、自分の専攻分野以外の講義を受講し、学識を深めることができます。講義の他にも、以前よりも多くの論文を調査したり、英語を用いたりする機会が多くなり、研究が中心の生活になるため、忙しい日が続きます。しかし、これこそが研究科の醍醐味。研究者の卵として成長していける充実した毎日を送ることができます。進学して4ヶ月が経ちましたが、講義やゼミの他にも勉強したいことは尽きません。残りの研究科生活を有意義なものにするために、限られた時間を大切に日々精進していきたいです。

クラブ紹介

学生生活をより良いものにするために

生協学生委員会 委員長

生物生産学科2年 雲丹亀 俊助

私はコロナ禍で先のことが想像できない不安な気持ちで、受験、入学を迎えました。その不安は私だけではなく多くの新入生や在校生が抱えていると思います。そこで、現在学生委員会ではコロナウイルスの影響により学生生活に規制がある中でも充実した生活が送られるように工夫して活動をしています。例えば、オンライン授業で必須となったPCを使いこなしていけるように「PC活用講座」、PCの操作や不具合のちょっと困った？などを解決する「PCサポートデスク」、コロナ禍での悩み、不安などの「アンケート調査」も行いました。その他にも、新入生歓迎会や実習服などの学生用品の受け渡し、現在の生活の中で必須となっているマスクを配布する活動など、より良い日常生活になるためのお手伝いを行ってきました。

新入生歓迎会では感染拡大防止のためオンラインで開催し、新入生が楽しめるよう様々な企画を行いました。このように今後も活動の中でコロナウイル

スの影響が様々なところであると思いますが学生委員で力を合わせ、組合員の声を反映し、学生生活がより良いものになるようにすることを目標に今後もその時にできることを精一杯頑張ります。



学生部だより

令和3年度における就職対策と
進路状況について

学生部長(就職対策検討委員長) 村 瀬 昇

本校では学内に就職対策検討委員会を設置して、学生課就職支援室の就職統括役を中心に学生への就職支援を行っています。就職対策に関する主な活動は、(1)3年生を主対象とした自己分析・自己発見のための職務適性テストの実施、(2)就職活動の専門講師やその他様々な分野で活躍されている講師を招いた就職ガイダンスの開催、(3)就職手引き書「就活支援ブックー就職活動編ー」を3年生全員に配布し、これを用いた就職指導、(4)企業等の採用情報の把握、(5)企業研究会・説明会の開催、(6)就職活動を行う際のカウンセリング等です。令和3年度は、新型コロナウイルス感染症への対策として、令和2年度に引き続き、合同企業説明会をWebで開催し、133社に参加頂きました。また、水産及び

関連分野の業界や企業の理解を深めることを目的とした、キャリア教育の一環として実施している企業研究会・説明会や1dayインターンシップは、本校の就職支援ツールとして令和3年度に導入したキャリアタスUCを活用して計49社・団体に開催して頂きました。さらに、コロナ禍においては、採用活動にWEB面接が導入されるなど、学生の就職活動を支援する上で新たな取り組みが必要な状況にあり、WEB面接専用のブースを設けるなど環境面での配慮を行っています。その活動の結果、令和3年度卒業・修了者の就職希望者172名(本科112名、専攻科50名、研究科10名)の就職率は97.7%(前年度は97.1%)で、このうち水産関連分野に80.4%(前年度は84.6%)が就職しました。今年6月には、企業側が優秀な人材を確保するためにインターンシップに参加した学生の情報を採用選考に利用することを認める方針が示されました。本校では引き続き、多様な採用に関する情報を収集し、学生の就職活動が円滑に行えるように必要な支援を実施してまいります。

令和3年度 卒業・修了者の進路状況

令和4年3月31日

本 科 専攻科 研究科	修 卒 了 業 者 及 び 数		進 学							試験 準備・その他	就 職 希 望 者 数 ②	就 職										進 路 未 定 者 数	就職率 (%)		
			大 学 院	研 究 科	専 攻 科	専攻 科等学	研 究 生 等	進 学 者 合 計	水 産 関 連 分 野										水産関連分野 者就 へ職 ー希 ス望	者就 へ職 ー内 ス定	全 体 就 職 率				
									国家 公務員			地方 公務員	各 種 団 体	漁 業・ 殖 業・	水 産 加 工	水 産 流 通	調 査 開 発 等	資 材 給 付 等					小 計 ③	そ の 他 分 野	内 定 者 合 計 ①
水 産 流 通 科	男	19	0	0	0	0	0	0	0	19	0	1	3	1	2	8	0	1	16	3	19	0	84.2	84.2	100.0
	女	2	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	1	1	50.0	100.0	50.0
海 洋 生 産 科 (9/30 卒業 1 名含む)	男	41	2	0	21	0	0	23	2	16	0	2	4	1	1	4	0	1	13	1	14	2	81.3	92.9	87.5
	女	8	0	0	2	1	0	3	0	5	1	0	0	1	0	2	0	0	4	1	5	0	80.0	80.0	100.0
海 洋 機 械 科	男	42	3	3	22	0	2	30	2	10	0	0	2	0	0	0	0	6	8	1	9	1	80.0	88.9	90.0
	女	4	0	2	2	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0
食 品 学 科	男	30	4	0	0	0	0	4	2	24	0	0	0	2	8	7	1	3	21	3	24	0	87.5	87.5	100.0
	女	15	3	1	0	0	0	4	1	10	0	0	2	0	4	0	0	1	7	3	10	0	70.0	70.0	100.0
生 物 生 産 学 科	男	17	0	1	0	0	0	1	0	16	2	0	1	0	3	3	1	5	15	1	16	0	93.8	93.8	100.0
	女	11	0	1	0	0	0	1	0	10	1	2	2	1	1	1	0	2	10	0	10	0	100.0	100.0	100.0
計	男	149	9	4	43	0	2	58	6	85	2	3	10	4	14	22	2	16	73	9	82	3	85.9	89.0	96.5
	女	40	3	4	4	1	0	12	1	27	2	2	4	2	5	4	0	3	22	4	26	1	81.5	84.6	96.3
専 攻 科 船 舶 運 航 課 程	男	19	0	0	0	0	0	0	0	19	3	0	1	0	0	4	3	2	13	6	19	0	68.4	68.4	100.0
	女	5	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	1	0	0	2	0	1	4	1	5	0	80.0	80.0	100.0
専 攻 科 船 舶 機 関 課 程	男	24	0	0	0	0	0	0	0	24	3	0	2	0	0	6	3	3	17	7	24	0	70.8	70.8	100.0
	女	2	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	0	100.0	100.0	100.0
計	男	43	0	0	0	0	0	0	0	43	4	0	2	0	0	13	3	3	25	18	43	0	58.1	58.1	100.0
	女	7	0	0	0	0	0	0	0	7	2	0	1	0	0	2	0	1	6	1	7	0	85.7	85.7	100.0
研 究 科	男	9	0	0	0	0	1	1	0	8	0	1	1	0	3	1	1	1	8	0	8	0	100.0	100.0	100.0
	女	2	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2	0	50.0	50.0	100.0
総 合 計	男	201	9	4	43	0	3	59	6	136	6	4	13	4	17	36	6	20	106	27	133	3	77.9	79.7	97.8
	女	49	3	4	4	1	0	12	1	36	5	2	5	2	5	6	0	4	29	6	35	1	80.6	82.9	97.2

【就職先の分類】

水産関連分野

各 種 団 体：水産に関する団体（漁業、流通、船舶等関係団体）

漁業・養殖業：水産動植物の採捕又は養殖の事業者

水 産 加 工：水産動植物を原料又は材料として、食料、肥料その他の有用物を生産する事業者

そ の 他：水産業関連分野以外の公務員・団体・企業など

水 産 流 通：水産物の貯蔵、運搬、販売等の流通に関する事業者

調 査 開 発 等：海洋水産関連の調査会社

資 材 供 給 等：水産業やそのサービス部門等に資機材供給等を行う関連事業者

令和3年度卒業生進学・就職状況一覧表

令和4年3月31日現在

◎進 学（大学院等） 東京大学大学院 九州大学大学院 金沢大学大学院 東京海洋大学大学院 鹿児島大学大学院 九州工業大学大学院 奈良先端科学技術大学院大学 福井県立大学大学院 北九州市立大学大学院 福岡国際医療福祉大学言語聴覚専攻科 ◎就 職 官公庁 水産庁（一般職） 水産庁（船舶職員） 農林水産省消費・安全センター 国土交通省（造船職員） 島根県 広島県 愛媛県 高知県 熊本県 自衛隊 大阪府警察 各種団体 （国研）水産研究・教育機構 国立大学法人東京海洋大学練習船 （一財）新日本検定協会 （一財）日本食品検査 （一社）日本海事検定協会 （一社）日本船用工業会 全国共済水産業協同組合連合会 秋田県栽培漁業協会 地方独立行政法人北海道立総合研究機構 静岡県漁業協同組合連合会 長崎県漁業協同組合連合会 全国農業協同組合連合会岐阜県本部	民間企業 (株)アーチヴェクト (株)アイエンター 旭海運(株) ALSOK ファシリティーズ(株) (株)アレフ 飯野海運(株) (有)岩松水産 上野トランステック(株) (株)うおいち (株)魚喜 (株)臼杵造船所 宇部興産海運(株) 宇和島運輸(株) NTTワールドエンジニアリングマリナ(株) (株)オートメーション・テクノロジー (株)尾鷲物産 海洋技術開発(株) (株)科学飼料研究所 カクサン食品(株) 角上魚類ホールディングス(株) (株)鹿児島鰻 金子産業(株) 川崎汽船(株) 川崎近海汽船(株) 関光汽船(株) (株)紀文食品 共栄タンカー(株) (株)京樽 共同船舶(株) (有)京都府峰山自動車学校 (株)キョーリン (株)極洋 黒瀬水産(株) (株)クロダ商店 ケイラインローローバルシップマネジメント(株) ケンコーマヨネーズ(株) 古賀産業(株) コスモ海洋(株)	(株)ささめ針 (株)サラダクラブ (株)サンナン 三洋テクノマリナ(株) (株)サンヨー堂 獣医医療開発(株) 商船三井テクノトレード(株) 新日本海フェリー(株) (株)ゼニライトブイ (株)ゼンショーホールディングス 第一中央内航(株) タイヘイ(株) (株)ダイキンアプライドシステムズ 大黒天物産(株) (株)ダイショー (株)大水 (株)ダイトコーポレーション ダイハツディーゼル(株) 太平洋フェリー(株) (株)タカミヤ 田淵海運(株) (株)チウスイ (株)中冷 津軽海峡フェリー(株) (株)テクノ・ライン 東亜建設工業(株) (株)東ハト 東洋水産(株) 東洋冷蔵(株) 豊橋飼料(株) トヨフジ海運(株) 内海造船(株) (株)ニシショウ産業 西日本ニチモウ(株) (株)西原商会 ニススイマリナ工業(株) 日東製網(株) 日東ベスト(株) (株)日本海洋科学	日本海洋事業(株) 日本クッカーリー(株) 日本水産(株) 日本ハム食品(株) 根津松本 農水フーズ(株) (株)ヴァーナル 博多港運(株) はごろもフーズ(株) 林兼産業(株) (株)バローホールディングス (株)BML フード・サイエンス 広島水産(株) (株)First Drop (株)ファミリーサポート 福一漁業(株) (株)福岡魚市場 福神汽船(株) 福永海運(株) 古野電気(株) (株)ボックス (株)ポートリリーフエンジニアリング ホシザキ北九(株) (株)マルイチ (株)マルテ小林商店 (株)マルハニチロ北日本 (株)ミキモト 明治海運(株) (株)ヤオコー ヤマエ久野(株) ヤマサ蒲鉾(株) 山崎製パン(株) 郵船商事(株) 横浜冷凍(株)
---	---	--	--

五十音順

令和4年度入試状況

本校の令和4年度入試状況をお知らせします。昨年11月に実施された学校推薦型選抜には、全学科で120名（前年度162名）の応募があり、また、今年2月に実施された一般選抜には全学科で478名（前年度472名）の応募があり、推薦と一般の合計で598名の志願者数となりました。

学科別応募状況は、水産流通経営学科48名（募集人員20名に対する倍率2.4倍）、海洋生産管理学科107名（募集人員45名に対する倍率2.4倍）、海洋機械工学科79名（募集人員45名に対する倍率1.8倍）、食品科学科111名（募集人員45名に対する倍率2.5倍）、生物生産学科253名（募集人員30名に対する倍率8.4倍）でした。全体では598名（募集人員185名に対する倍率3.2倍）、前年度（令和3年度）入試の志願者数634名（3.4倍）から36名の減少となりました。

令和3年度も新型コロナウイルス感染症対策とし

て、令和2年度と同様に、西日本を中心とした高校訪問と校内でのオープンキャンパスが実施できませんでした。これら受験生の確保の取り組みの代替として、高校等へは水産大学校案内や募集要項などを郵送するとともに、電話で本校の概要などを説明しました。また、一部の内容を更新した「Webオープンキャンパス」を本校のホームページから閲覧できるようにしました。

今年度は、一部の高校訪問では新型コロナウイルス感染状況を判断して可能であれば直接面談をお願いして対応してきました。また、8月には、参加者数を限定し、感染対策を徹底した上で3年ぶりに校内でのオープンキャンパスを実施できました。たいへん盛況で本校の魅力を十分に知っていただいたと実感できました。新型コロナウイルス感染の影響が長引きますが、受験生確保への活動などを積極的に取り組むことで、水産学を学ぶ意欲の高い、多くの高校生に志願して頂けるよう、引き続き努力してまいります。



水大学園だより

国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産大学校 〒759-6595 下関市永田本町2丁目7-1 電話083(286)5111
ホームページ <https://www.fish-u.ac.jp/> [発行] 学生課

「コロナと生きる、その3」

理事(水産大学校代表) 荒井 修 亮



平素より保護者の皆様をはじめ関係各位には、水産大学校の運営に際して、多大なるご支援とご理解を賜り、まことにありがとうございます。

私にとって、この「水大学園だより」の原稿執筆は今回で3回目となりました。前回(第51号、令和4年3月15日)では、新型コロナウイルス感染症対策として、全学を

挙げてのワクチン職域接種1回目、2回目の実施と3回目の準備状況について紹介しました。その後、3回目の職域接種を昨年7月に実施し、いよいよコロナが収束に向かうのではないかと期待の下、休止していた課外活動の段階的な再開や2年連続で開催できなかったオープンキャンパスを人数限定でしたが対面で行うとともに、10月から後期の授業を原則対面で実施するに至った次第です。また学内限定でしたが、学園祭(海燕祭)も開催することができました。ただ、日程が12月下旬となり、寒風吹きすさぶ中での開催となりました。

しかし、ご承知のとおり昨年末から年明けにかけて新型コロナウイルス感染症は第8波の到来という予断できない状況となっています。特に山口県では年明け早々に過去最悪の感染者数を記録するなど、たいへん緊張感が漂う状況となっています。前述のとおり昨年7月に3回目の新型コロナワクチンの職域接種を行ったところではありますが、今年はインフルエンザの流行の兆しもあるとのことで、事態は

やや複雑さを増しています。

いまや日常生活を営む限り新型コロナウイルスの感染を避けることは、難しいのが現状、すなわち「ウイズコロナ」です。しかし、そうであってもいまま一度、3密の回避や手指消毒の徹底など、感染防止の基本に立ち返り、各自適切な健康管理を心がけていただきたいと思います。また健康上、支障のない限り、オミクロン株対応のワクチンならびにインフルエンザワクチンの接種をお願いする次第です。

今年の水産大学校が所属している、国立研究開発法人 水産研究・教育機構(水産機構)の第5期中長期計画(令和3年度から5カ年)の3年目となる年です。本計画において、水産機構の人材育成を担当する拠点である水産大学校では、「水産資源の適切な管理を推進しその持続的利用に寄与する人材育成」、「水産業の成長産業化のための生産技術の開発・社会実装に寄与する人材育成」ならびに「水産に関する広範な知識と技術を有する技術者や海技士の育成」を3つの大きな柱としています。「ウイズコロナ」の下、教職員一同、教育および研究の一層の高度化に取り組んで参る所存です。

本稿執筆時点、政府は新型コロナウイルスの感染症法上の扱いを巡り季節性インフルエンザと同じ「5類」へ移す方針を明らかにしました。しかし、現時点では卒業式(3月21日)と入学式(4月5日)については、昨年に引き続き、当該学生と関係教職員だけで執り行う予定にしています。卒業式へのご列席を楽しみにされていた保護者の皆様には大変申し訳のないことですが、事情ご賢察の上、なにとぞご容赦をお願い申し上げます。

最後に、51号と同じ言葉で締めくくりたいと思います。明けない夜はありません。学生諸君には明るい未来を信じて、いまできることを精一杯がんばって欲しいと願っています。ピンチはチャンス!

最近の話題

着任のご挨拶

水産流通経営学科 講師 猪熊 慶 祐

昨年10月に着任しました猪熊慶祐(いのくまけいすけ)と申します。本学では主に英語科目を担当し、近い将来水産の世界に飛び込む学生に不可欠な英語力を身に付けるお手伝いをしています。私は海の無い土地に生まれ育ち、国内外様々なところに住んでおりました。しかしいづれも海とは縁遠い土地であったため、着任以来、未知の世界に驚き同時に

知的好奇心を刺激されています。

英語科目担当ですが、専門は19世紀中葉から20世紀初頭のアメリカ大衆文化、とりわけ舞台芸能を研究しています。舞台といっても、いわゆる演劇ではなく、今でいうところの吉本新喜劇のような芸能です。今も昔も芸能の中心地は大都市、ニューヨーク。その歓楽街で人々が日々の憂さを晴らすために足を運んだ、歌あり笑いありの、まさに「大衆」の娯楽です。

この芸能は、演者、観客共に多くが社会的弱者(マイノリティ)でした。草創期の歌舞伎のようで



す。お笑いの舞台の分析から見るのは、現実社会の構造を転覆したり、押並べて平らになったりした人間関係などです。つまり、芸能者は人々が抱える何かしらの不満を舞台で笑いに換え、社会を風刺したのです。同時代の人々はこのような劇場外ではまず起こりえない状況を享受したので

す。このように大衆娯楽は、多様性を受け入れ認めあうべき時代の我々が絶えず考えなくてはならない重要な点をいくつも含んでいるのです。

このように私の研究について書くと、皆さんの関心からは縁遠いように思われますが、実はそうでもありません。19世紀大衆娯楽からは大都会ニューヨークの別の一面が浮かび上がります。それが、水産業です。ニューヨークは水産業とは切っても切れない街でした。同市の歓楽街は世界中を航海する船乗りや港湾労働者で賑わいました。そして牡蠣の一大産地という顔も持ち合わせていたのです。現在では「牡蠣＝ボストン」と連想されますが、19世紀アメリカではニューヨーク。牡蠣を提供する酒場やレストランが街中に溢れ貧富問わず日々牡蠣を口にできると言われたほど、牡蠣産業は人々の生活の重要な位置を占めていました。当然ながら牡蠣は大衆芸能の舞台でも言及されています。皆さんが関心を持つ水産業は、19世紀アメリカ大衆娯楽の舞台にも人々の生活に密着した姿で現れるのです。ラボの魚との対話からは見えてこない水産業の一面です。

授業では一人でも多くの学生が道具としての英語のみならず、水産の世界を生き抜くために求められる広い知識と多角的かつ深い視座を獲得できるように心掛けています。学生の皆さんは、学問探究の場であるキャンパスで大学生活を存分に味わって欲しいと思います。

着任のご挨拶

水産流通経営学科 助教 柴田 崇 広



令和4年10月1日付で水産流通経営学科・水産基礎講座の助教に着任した柴田崇広と申します。私は京都府舞鶴市の出身で、京都大学理学部を卒業後、同大学院で博士号を取得し、3年ほど研究員・特任助教・非常勤講師といった職を複数の

の大学で勤めた後、本校へ着任いたしました。

私の研究分野は数学です。具体的には、代数幾何学と呼ばれる分野を専門としています。代数幾何学というと縁遠い世界のように感じるかもしれませんが、皆さんにも馴染みのある放物線や円といった図形は代数幾何学の扱う対象となっています。このような「方程式」で定義される図形を扱う学問が代数幾何学です。代数幾何学の醍醐味は、研究対象が方

程式でもあり図形でもあるという所です。たとえば図形を直接見ずとも方程式を分析することでその図形の「形」を知ることができますし、逆に方程式の解について知りたいときに、その方程式が定める図形の形から様々な情報が得られることもあります。ひとつ例を挙げると、有名なフェルマーの最終定理：「 $x^n + y^n = z^n$ の非自明な整数解が $n \geq 3$ で存在しないこと」は、 n を大きくするとこの方程式が定める図形の「穴の数」が増えてしまうことに起因しています。穴の数が大きくなると図形の形がどんどん複雑になっていき、結果として整数解を含まなくなってしまうという訳です（実際に証明するには難しい数学理論をたくさん使う必要がありますが…）。このような図形と方程式の二面性こそが代数幾何学の魅力だと思います。

このような抽象的な研究は社会や水産学全般にとって一体何の役に立つのか？と思われるかもしれませんが、もちろん代数幾何学といった現代数学の諸分野は数え切れないほど産業・テクノロジーに応用されています。しかし数学の基礎研究は初めから応用を考えて行われているとは限りません。むしろ歴史的を振り返ると、純粋な数学への興味から生まれた研究が後になって思いもよらない応用を持つようになることが多々あります。数学に限りませんが、基礎研究は純粋な学術的興味に沿って行うことで豊かな研究成果を生み、それが後に応用されることで社会の役に立つのではないかと考えております。

私は研究者としても教育者としてもまだまだ駆け出しですが、より良い研究と教育を提供出来るように精一杯頑張っています。特に数学は難しいと敬遠されがちな学問なので、少しでも数学を好きになってもらえるような授業が出来ればと思います。何卒よろしくお願い申し上げます。

水産系海技士への期待

海洋生産管理学科 教授 秦 一 浩

水産系海技士という言葉は一般的にはあまり知られておらず、その教育内容や特色、魅力を知らずに本校に入学してきている学生も多いように思います。

私自身も本校の海技士教育のことは漠然と船の免状が貰えるらしいという程度の認識しかなく、練習船で外国に行けることが入学時の唯一の期待でした。

最盛期は国立大学だけでも北海道大学、東京水産大学、三重大学、広島大学、長崎大学、鹿児島大学から水産学部出身の航海士が輩出され、世界の海で活躍されていたようです。

私が本校に入学した昭和55年当時は、まだ大手水産会社が人気の就職先でした。水産業が戦後の食糧難や復興を支えたという自信と誇りを持った先生方から魚を獲りながら、工場を稼働させて利益を出し続けることを現場で総合的にマネジメントする船長の職責の重さは相当なもので、求められる能力は多岐にわたることを教えていただき、憧れを持ちながら学生時代を過ごしましたが、既に我が国の大



型トロール船の時代は終わろうとしていました。

私が航海士を目指すきっかけは学生時代に水産庁の調査船で航海士が単に船舶の運航をするのではなく、計量魚群探知機を用いた資源調査やナンセン転倒採水器やGEKをもちいた海洋環境調査に直接関わり、水中音響にも海洋物理にもとても詳しく、さらに取得されたデータを洋上で調査員と一緒に一次処理して母港帰港までに調査速報を仕上げる作業を見たことでした。

水産系の航海士ということでは水産庁就職後、昭和63年から3年間お世話になった海洋水産資源開発センターには全国の水産学部を卒業された航海士が水産会社各社から調査員として出向しておりました。皆さん世界の漁場で活躍されてきた迫力があり、幅広い知識と探究心をもたれた魅力的な方々でした。その中には本校OBも数名おられ、水産大学校というのはこのような人を育てる学校だったのだということを初めて知りました。

近年再び、学生から航海士になっていろいろな国に行ってみたい、陸上よりも高い収入を得たいという言葉聞くようになり、船への興味だけでなく水産資源や海洋環境調査への興味など志望動機は様々ですが、多くの学生が専攻科進学を希望しています。

海洋生産管理学科で行っている海技士教育は卒業後、水産に関わる幅広い分野で成長し活躍するための基礎となる技術や知識を講義や乗船実習で行い、水産資源研究所の調査を経験しながら水産系海技士として実務能力が習得できるようになっています。

漁業者の安全や最新の航海技術を活用した漁船経営の効率化につながる技術開発など水産業界をより豊かで安全な産業として発展させていくための知識や技術が学べる、おもしろい学問分野だと思っています。再び海上勤務を目指す若者が多く集まる水産大学校、三級海技士は海で生き抜くために最低限必要な基礎として、水産に関わる幅広い分野で活躍できる人材が巣立つことを期待しています。

International Ocean Energy Symposium & Joint Young Researcher Forum に参加して

海洋機械工学科 教授 西田 哲也

海洋機械工学科船用機関学講座の蒸気研究室で

は、学生と教員が本会に参加しています。韓国釜慶大学校、韓国海洋大学校、韓国木浦海洋大学校、佐賀大学海洋エネルギー研究所が参加し、今年度で19回目を数えるほどになりました。海洋エネルギーに関する学術交流と若手研究者の教育を主な目的として日本と韓国とで交互に開催され、2年に1度関釜フェリーで釜山を訪れることを楽しみにしていました。これまで韓国では、釜山（釜慶大学校、海洋大学校）と木浦（木浦海洋大学校）で開催され、日本では、九州地区九重共同研修所、佐賀大学海洋エネルギー研究所伊万里サテライト、能古島（のこのしまアイランドパーク）、福岡および下関で開催されました。14回目（写真）は、念願の本校で開催し、宿泊所は下関の奥座敷川棚温泉の旅館川棚グランドホテルお多福を用意しました。

コロナ禍のため2年間開催されませんでしたが、今年度こそは、現地開催されると期待していました。しかし、残念ながら10月20日にリモート開催となりました。会が始まる前に2回目から参加されてきた釜慶大学校のKIM先生が亡くなられたことのお知らせがあり、生前の写真が映し出されて精神的ショックを受けました。もう一度釜山で先生に会いたかったのにもう二度と会えないことが痛恨の極みであり、後悔の日々です。先生は日本で博士の学位を取得され、日本語が堪能であり、年齢が近いこともあり、親近感があり、質問しやすい先生でした。以前先生を下関春帆楼に招待したことがあり、奥さん同伴で来られたので、急遽人数を1名追加したことや蓋井島沖（下関）の船釣りにも招待し、入れ食い状態を大変喜ばれていたことは今でも良い思い出です。

この3月をもちまして定年退職するため来年度からはこの会に参加することがかなわなくなりましたが、この会が今後も続くことを祈っています。また、来年度こそは、釜山（海洋大学校）で開催されることを期待しています。この会に参加するに当たり一般財団法人水産大学校後援会にご支援いただいたことに紙面を借りて心から感謝申しあげます。今年度のリモート開催においても学生と教員が共に海洋エネルギーに関する新たな知見を得るとともに学術的交流を深めた大変有意義な時間を共有することができたことをここにご報告させていただきます。最後に、KIM先生のご冥福を心からお祈り申しあげます。



10年を振り返って

食品科学科 教授 宮田 昌明

本年3月で定年を迎えます。早いもので約10年ばかり本校の食品科学科で教員生活を送らせていただきました。本校へ赴任前は医学部、薬学部在籍しておりましたので食品科学科での教育、研究は新鮮なものでした。

全学の講義の基礎化学や水産食品科学、食品科学科の食品化学や食品分析実験等を担当させていただきました。初めて講義する教科などは必死に準備して講義に臨みましたが、最初はわかりにくいなどの声もいただきました。年々努力して10年でかなり改善されたと思います。3年前はコロナウイルスの影響で遠隔授業となり、私自身も授業資料の作成などで苦労しましたが、学生の皆様はより対応に苦労されたと思います。特に印象に残っているのは3年生の実習で企業を見学して回った食品加工調査や耕洋丸で九州を一周した乗船実習などで、私にとっても貴重な経験となりました。



研究においては、一貫してマウスを用いて水産由来成分の機能性評価を実施いたしました。水産大学校なのにマウスなのかと思われるかもしれませんが、私は長年米国留学中に作製した遺伝子の欠損した病態マウスを用いて研究を実施しておりましたため本校に赴任した時、このマウスが飼育できるよう空調設備の完備した前室付きの動物飼育室に改装していただきました。この動物飼育室で繁殖させたマウスを用いて魚油成分やタウリン、セレノネイン、トリメチルアミノオキシドなどの水産由来成分の機能性について研究してまいりました。私の研究室に入った学生さんの中には魚を捌くのは大丈夫だがマウスはちょっとという学生さんもいましたが、全員研究室に配属されると最初にマウスの保定から投与、解剖、採血などの練習をしてもらいました。器用ですぐ上手になる人ばかりではありませんでしたが、10年間で約40名の全員マウスの解剖や採血が出来るようになって卒業していきました。皆様の研究の努力の結果はできるだけ論文にできるように努め、多くの卒業生に論文の共著者になっていただきました。

社会貢献では、震災復興プロジェクトの研究グループに参加させていただき、企業の方と共同で特許を出願したり、機能性食品の開発を手助けしたりいたしました。また内閣府の食品安全委員会の専門委員を10年間務めさせていただき、食品に含まれる動物用医薬品の健康影響評価をさせていただきました。

約10年と短期間だったためあまり本校に貢献することはできませんでしたが、来年度以降も特命教授として、講義、実験の他に卒業論文指導も実施する予定となっております。気分はまだ現役のつもりですので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

赤潮被害防止対策技術の社会実装に向けた研修会の開催

生物生産学科 講師 山崎 康裕

赤潮とは、水中の微生物の大量増殖や集積によって発生する水の着色現象のことです。赤潮を引き起こすラフィド藻のシャットネラは、西日本を中心として魚介類の大量斃死を引き起こす有害赤潮原因種の一種です。シャットネラは、1960年代ころから瀬戸内海を中心に甚大な漁業被害を引き起こしており、2010年夏季に八代海で発生した赤潮では53億円に上る漁業被害を引き起こしました。したがって、シャットネラ赤潮による漁業被害の軽減には、増殖初期段階における迅速な毒性リスク評価が重要であると考えられています。一方、これまでの先行研究により、シャットネラは生体に有害な活性酸素種のひとつであるスーパーオキシドを生成していることが広く知られており、このスーパーオキシド産生レベルは魚毒性の強弱と相関があると考えられています。

このような背景から、私が参画している水産庁委託事業「漁場環境改善推進事業のうち赤潮被害防止対策技術の開発」では、平成30年度から現場でスーパーオキシドを測定できる調査・研究体制の構築に取り組んできました。この結果、調査船内において試料中のスーパーオキシドを迅速に測定する技術を確認しました。この技術の普及のためにクリアすべき課題を明確にするため、令和4年12月7日に地方自治体や漁業協同組合の職員等を対象とした「スーパーオキシド検出法の技術普及及び機器間誤



スーパーオキシド測定研修会のようす

差の確認」研修会を広島市にて開催しました。本研修会では、(国研)水産研究・教育機構水産技術研究所(廿日市庁舎)の湯浅光貴博士によるルミノメーターを用いたスーパーオキシド検出系に関する概要説明の後、スーパーオキシド測定の実演を行いました。また、参加者の方々にも実際に測定操作を経験していただきながら、測定時の注意点や試薬の調製法等について解説しました。

研修会終了後のアンケートでは、「実際に測定することで測定の仕方等が理解しやすくてとてもいい研修となった」、「実際に測定し、予想以上に簡単に測定できるので驚いた」、「測定の注意点は測定マニュアルに分かりやすく記載していただきたい」等の感想やご助言をいただき、本手法の社会実装に向けた課題を明確にすることができました。今後は、研修会参加者の皆様からいただいたご意見をスーパーオキシド測定マニュアルに反映するとともに、スーパーオキシド検出法の技術普及に向けた最終調整を進めていく予定です。最後になりますが、今回の研修会では社会人として成長した教え子(水産試験場の赤潮担当)と再会することもでき、個人的にも印象深い研修会となりました。

最近の話題

天鷹丸専任教員兼次席一等航海士 川 端 啓

初めまして。令和4年度より天鷹丸専任教員兼次席一等航海士に着任しました川端啓です。

私は平成29年4月に水産庁に入庁しました。最初の3年間は漁業取締船「白竜丸」に乗船し、主に外国漁船の取締業務に従事しておりました。当時、主な取締業務としては中国、韓国、台湾及び北朝鮮漁船の対応を行っていました。「白竜丸」では初めて見る様々な外国漁船の漁法や漁船を勉強することが出来ました。

その後令和2年度より2年間、水産研究・教育機構の漁業調査船「陽光丸」に赴任し、南シナ海、東シナ海、日本海及び有明海にて漁業調査業務に携わっていました。そこで初めて行った調査機器の整備や調査業務に携わることや、取締船の頃に東シナ海にて見ていた外国漁船による水産資源に与える影響をトロール調査で目の当たりにでき、水産資源に与える要因は単純に1つの影響だけではなく、気候変動や漁業によるものなど様々な要因によって成立するという事を勉強でき、とても充実した2年間でした。



着任の挨拶と自己紹介はこれくらいにしまして題目である「最近の話題」についてお話ししたいと思います。

12月26日に天鷹丸は専攻科最後の航海である遠洋航海を終了しました。今航海は途中、新型コロナウイルスにより下関に一時入港してしまい遠洋での延縄実習を行うことが出来ませんでした。また年度初めの計画ではパラオ共和国に入港予定でしたが、それも新型コロナウイルスの影響で鹿児島入港に変更となりました。専攻科生には延縄実習にて漁具・漁法及び水産資源のことや、外国に寄港する経験を学んで貰いたかったのですがそれも叶わずとなってしまいました。しかし、外洋にて六分儀を用いての「天測計算」を行うことはでき、基礎的な航海術を勉強及び習得する時間を取ることができたのはとても良かったと思いました。

今年度天鷹丸に着任し、私が学生として乗船していた頃の「練習船」ではなく、旧みずほ丸の調査業務を引き継ぐ形で「練習船兼漁業調査船」と変化しており当時と実習内容が変化しています。ですが私が取締及び調査船で経験及び勉強したことや、航海士として習得した航海術を学生にうまく伝えることが出来るよう、学生以来に開いた参考書などで勉強する機会や、人に「教える」ということを考える機会が多々あり、私自身とても勉強になっています。

次年度は私自身のスキルアップもありますが、学生に実習及び調査業務を通して、航海術はもちろんですが特に、「水産」というものを考える機会を作っていけたらと思います。また、次年度は新型コロナウイルスの収束を願い、遠洋航海での外地寄港を実現出来ればと願っています。

就 職 活 動

就職活動を終えて伝えたいこと(公務員)

水産流通経営学科4年 田 中 涼 太

私は山口県庁(水産)より内定をいただきました。

公務員試験の勉強は3年生の6月より始めましたが、本格的になったのは11月からでした。勉強を

するにあたって後輩の皆様に伝えたいことは、目標を立てて自分のペースで計画的に無理をせず勉強することです。今月は何時間やるという目標を立てると、目標達成に必要な時間を毎日コツコツとすることで確実に力をつけることができます。毎日の勉強時間を記録すると、最近サボり気味だから今週は頑張ろうという気持ちになったり、自分はこれだけ頑

張ったという自信に繋がったりするのでおすすめで
す。

1次試験が終わると、少し間が空き、2次試験が
始まります。私は1次試験の終わった開放感から気
が抜け、小論文、面接対策が遅れてしまい、とても
焦った記憶があります。公務員試験は2次試験の配
点が高いため、早いうちから対策を講じる必要があ
ります。

自分の将来を決めるのは自分ですが、就職活動は
1人だけであるものではありません。私自身もエン
トリーシートへの添削や面接の練習をゼミの先生や就
職支援室の先生にしてもらい、友人と意見交換をし
て、参考にしながら就職活動をしてきました。就職
活動はやればやるほど良い成果が出るものだと思
いました。

就職活動で感じた重要性

海洋生産管理学科4年 小 牧 大 将

魚と釣りが好きな私は、関連の職種でかつ関東の
企業を中心にエントリーしました。結果として、条
件に合う企業に5社から内々定を頂くことができま
した。

対面による対応へ苦手意識を持っていた私は、就
職活動の初期は面接にばかりに重点を置いてエン
トリーシート（以下：ESと略します）で落とされる
ことが多かったです。しかし、ESに重点を置くよ
うになった結果、面接と合わせて試験への対応が上
達して選考は次々と通過し、5月頃に内々定を頂け
るようになりました。対策は、もちろん面接におい
て必要ですが土台（内容を掘り下げて質問される）
となるESを軽視してはいけないことを痛感し、後
悔しました。これから就活を行う皆さんへは、ES
を早い段階で完璧に仕上げることをお勧めします。

試験に対する内容のアドバイスとして、質問項目
に多いのは「学生時代に力を入れたこと」です。こ
の内容は、アルバイトでも趣味でも何でも良いので
自分の好きなことについて書き、面接官を笑わせ
たり、自分の行いを自慢するつもりで望むと自身に
とって（気持ちが高揚）有利なように面接で話しや
すいと思います。私の場合は、面接で好きな釣りや魚
について笑顔で（ここが1番重要）熱く語って面接
官からのウケが良かったです。

最後に、（全員がそうという訳では無いのですが）
下級生は就活以前に日常生活の社会的な常識が怪し
い人が多いと感じるので日常生活を見直すことから
是非始めてみてください。ご健闘を、お祈りします。

就職活動を終えて

海洋機械工学科4年 佐 藤 優 衣

私は就職活動を終えて、最も大切だったのは就活
の軸を持っておくことだと感じました。軸とは、就
職するに当たって自分が譲れないと思う部分のこと
です。それは職種でもいいし、お給料や福利厚生、
勤務場所でもいいでしょう。ひとつと言わず、いく

つか持っておくことをお勧めします。この軸は自分
に適した就職先を探す際の一つの指針になります。
軸がなかなか決まらない人は、まずは企業の
1DAYのインターンシップや説明会に参加してみ
てください。気になる企業さえも分からない人は、
同じ学科のOB、OGの方々の就職先から選ぶのが
良いと思います。そうすると、良いなと思ったり、
微妙だなと思ったりすると思います。良いと感じた
部分があなただの就活の軸になるでしょう。しかし、
軸が多いと逆に自分の選択肢を狭めてしまうので、
優先順位をつけて、2～4個くらいにするのが良い
と思います。その後は、方々から言われているよう
にしっかりと準備をしておくことが大切です。面倒
かもしれませんが、早めに取り組んでおけば後がと
ても楽になります。私は後回しにして後悔する場面
が何度かあったので、皆さんにはできればそのよう
な経験はして欲しくないと思います。これから就活
に挑む皆さんが、後悔のない就職ができることを心
より願っています。

就職活動で感じたこと

食品科学科4年 遠 藤 綾 野

私の就職活動は昨年3月の合同説明会の少し前か
ら始まりました。少し遅く始めてしまったことに焦
り、最初は何をしたらいいのかも分からず失敗続
きでした。方針や軸が作れない間は面接で自分のこ
とをうまく伝えることができず、不合格続きでした。
悩んだ末に友達に相談し、自分のことをあれこれと
話してみると、不思議と自分がどんなところで、ど
う働きたいかが見えてきました。

この経験を通じて就職活動で大切だと感じたこと
は、自己分析です。企業研究やエントリーシートの
作成、面接対策なども大切な作業なのですが、主体
的に自分を売り込まなくてはならない就職活動では
自己分析が最も大切だと感じました。自分がどのよ
うな人間で、どんなことをしたいのか、何が自分
に向いているのか、将来どのように過ごしたいのかを
皆さんには早い段階で考えてほしいです。自分のこ
とをよく知ることで自信にもつながります。一人で
考え込んでしまわず、友達や家族、先生に相談した
りするのもいいと思います。

将来に対して不安を感じ、周囲と比べてしまうこ
とがあると思いますが、覚悟や一生懸命さは面接官
にしっかり伝わります。自分を見つめ、自分を信
じ、納得がいくまで諦めずに頑張ってください！

就職活動を終えて

生物生産学科4年 蔦 原 仁 平

私は6月から7月にかけて行われた公務員試験に
失敗しましたが、11月頃に追加募集のあった地方
県職に応募し、福井県（水産職）から内定をいただ
くことができました。

これから就職活動を始める方に伝えたいことは、
あきらめないことです。私は就職活動を終えて、自

分がしてきた努力が報われた、継続していて良かったと実感しました。私は一度試験に失敗してしまいましたが、そこであきらめずに試験勉強を継続し、二度目の試験で自信を持って臨むことができました。公務員や民間企業を問わず、就職の難易度が高いと思っても断念せず、そこで働きたいという情熱をもって挑戦してみるといいと思います。途中であきらめずに努力していれば、必ず就職活動を成功させることができると思います。

私は一度目の試験において、私がしてきた勉強は正しかったのか、失敗したらどうしようという不安でいっぱいでした。これから就職活動を始める方は、クラス担任や研究室の先生、就職支援室の職員さん、そして先輩や友人などに積極的に相談することをお勧めします。初めての試験や面接は不安になってしまいます。多くの人に協力していただき、不安を自信で打ち消せるよう頑張ってください。

船乗りを目指す学生へ

専攻科船用機関課程 鷲谷 孟 晟

まず行きたい企業があるならば、諦めずに目指す

べきです。失敗を恐れ、勝手に「行けない」と判断するのは勿体ないと思いませんか。案外、就活では自分で行けると感じた企業の選考に漏れることもあります。自分の見立てなんて良くも悪くも「その程度」です。また「絶対に外航船員になる」という強い意志も十分な一芸になります。就活は数字の単純比較ではなく、想いの強さで勝負できます。もちろん良いラベルの商品は選ばれやすいので、海技試験やTOEICは意思表示の意味でもできる限り上を目指すとよいです。特に外航志望であれば自分に自信を持つ根拠にもなります。しかし、重視されるのは二十数年かけて造られた中身であり、その熱意なのではないでしょうか。級やスコアで勝る相手がいても怯まずに、誰にも負けない想いを面接官へぶつけてください。周りと比べず、自分だけができることを考えましょう。それが自己分析であり、自己PRや学チカへと繋がります。時には恥を捨て、先生や友人などへ自分の想いを話し、客観的なアドバイスをもらおうとよいです。新しい発見に加えて、意外にも自信に繋がることもあります。後悔のないよう、諦めず夢を追いかけてください。

図 書 館

山口県大学 ML（博物館・図書館） 連携特別展を開催して

学生部図書課 課長 田村 賢

11月1日から12月27日まで、本校図書館2階会議室を会場として山口県大学 ML 連携事業の特別展を開催しました。これは山口県内の13大学の博物館（M）と図書館（L）が一つの共通テーマの下、各館でサブテーマを設けて学術資料などを展示するもので、各大学の特色や活動について情報を発信し、地域活性化を図ることを目的としています。毎年、10月から翌年1月までの間に開催されています。本校図書館も平成25年度から参加してきましたが、令和2年度と3年度は新型コロナウイルス感染症の蔓延状況を鑑みて参加を見送りました。今年度は、この感染症の蔓延を予防するために入場者を本校関係者に限定した小規模な展示として参加することにしました。内輪で完結する展示会とはいえ、久しぶりの開催となりましたので、我々図書館関係者（委員、スタッフ）は大いに発奮し、総力を挙げて展示の準備に取り組みました。

今年度の共通テーマは「追想」でした。本校図書館はサブテーマを「昔日の水産教育の情景」として、昭和16年の前身校創立当時から現在までの本校キャンパス、校外実験実習場と練習船といった本校3大教育施設の変遷を図書館スタッフが編集・作成した年表と写真で紹介するとともに、これら水産教育施設の活用に伴って生み出された本、論文誌、保管資料を来場者が気軽に手に取って閲覧できるように展示しました。特に、本校カッター部が参加し

た2件の考古学上の実験航海について書かれている本や雑誌、平成26年度をもって廃止となった臨海実験実習場での研究・教育活動の成果論文と実習風景の写真、先代（第三代）耕洋丸の昭和54年度の遠洋航海実習でアマゾン川河口沖の生物調査を行ったときの調査報告書や平成6年度の遠洋航海実習で世界一周航海を指揮した乾船長が学園だよりへ寄せた航海記といった、古き良き時代をしのぶ展示に来場者の関心が集まりました。2か月にわたる展示期間の来場者数は103名となり、このうちの66名は、今日の水産教育を受けて、これからの時代の担い手となる学生達でした。

このたびの本校図書館の展示では「来場者が育てる展示」というコンセプトを掲げておりました。来場者には、展示資料の中で“ここは良い内容なので他の人も是非閲覧して欲しい”と感じた箇所があれば、そこにコメントを記入した付せんを貼っていただくようお願いしました。開催期間を通して展示資料中の16箇所に付せんが貼られ、在りし日の臨海実験実習場の美しい風景写真には二首の和歌が、それぞれ付せんにて添えられていました。本校図書館の毎年の行事として復活したこの特別展を来年度は地域の方も含めてさらに多くの方に利用していただきたいと思います。



学生部だより

沈む瀬あれば浮かぶ瀬あり

山口県立大津緑洋高等学校
三好宏政

私は現在、山口県立大津緑洋高等学校水産校舎で機関系科目の教員をしています。大学在籍時には将来自分が高校で教員になるとは夢にも思っていませんでした。大型調査船等を経て練習船で勤務したいというのが私の目標でしたが、当時は希望する進路からの求人が全くなく、とある県に就職しました。

最初に配属されたのが100トン超級では日本最速(当時)という新造の漁業取締船で船は小さかったのですが、3代目耕洋丸より出力の大きい、機械式ガバナータを持たない電子制御主機関、ウォータージェット推進装置など、ほとんど知識のない機器ばかりで、毎日独学で勉強する日が続きました。また、取締船ということで機関の運行整備業務以外に取締業務もこなしていかななくてはなりません。漁業法、県漁業調整規則、さらには刑事訴訟法等も勉強しながら、新造船ならではの初期トラブルや電子制御に起因する原因不明のセンサーや基盤トラブルの対応、検挙船の実況見分、被疑者の供述調書作成等の業務をこなしていくうちにあっという間に時間が過ぎ、その後漁業調査船に転船となりました。

調査船も船は小さく、練習船の小型版といった感じでしたが、機関部といえども調査業務もこなしていかななくてはならず、高度な調査機器の扱い、新しい漁法や漁場の開拓、調査の準備など、こちらもあっという間に時間が過ぎていきました。



取締船と調査船を何度か行き来し、40歳を過ぎたときに知人から水産高校で教員をやってみないかと声をかけてもらいました。年齢のこともあり随分悩みましたが、元々練習船で勤務したいという大学時代の

目標を思い出し、やってみようと思ひ、41歳にして転職をしました。最初は、わからないことばかりで大変でしたが、現在では高校生から元気ももらいながら充実した日々を過ごしています。何より自分がこれまで経験してきたことを伝えていけるということにとってもやり甲斐を感じています。

人生、思い通りにならないこともあると思いますが、一生懸命生きていれば充実した日々が過ぎせると思います。皆様の今後のご活躍を期待しています。

学んだことを活かして

株式会社日本海洋生物研究所 松村海斗

私は令和2年3月に卒業し、現在は株式会社日本海洋生物研究所に勤務しています。当社は、深海から陸域に至るまでの水域環境、特に生物の調査を主な業務とし、生物試料の採取および分析、これらの調査によって得たデータの解析を行っています。例えば、海域の調査では、港湾工事等による生物環境への影響や、漁場環境整備の効果等を調べて報告します。

私は入学以前から海の貝類や魚類の多様性に関心があり、それらに対する知識や理解を深めようと水産大学校に入学しました。卒業研究では、資源増殖学講座の高橋洋先生に師事し、希少生物の遺伝的多様性の研究に取り組んでいました。また、生物生産学科の実習ではアマモ場でのサーフネット調査や、底泥中の生物採取といった生物調査を体験しました。こういった一般的な調査手法に加えて、昨今では遺伝分野の技術の進歩により当社のような民間企業でも遺伝情報を用いた調査が導入されています。例えば、環境DNAによって希少種の存在を調べる調査や、生物片から塩基配列による種判別を行うなど、遺伝分野を応用する調査が増えており、学生時代に学んだことを活かすことができています。

最後に、オタクと有識者の違いはその蓄えた知識を社会や人に役立てられるかどうか(公益性の有無)だと、何かの本で読んだ覚えがあります。私は有識者というにはまだまだ未熟ですが微力ながらも社会の役に立てよう、現在の職場で日々精進しています。在学生の中には就職先など将来像が見いだせない方もいると思います。かく言う私も4年生の夏ごろまで進学するか就職するかを決めかねていました。就職先を探すときはその組織の大きさや待遇面に気を取られる方も多いかもしれません。しかし、就職先を決める際には自分が本当に興味を持って取り組める仕事かどうかについて、出来るかぎり事前に情報収集することをお勧めします。

大学時代は4年間という短い時間ですが、様々な経験や知識が得られると思います。それらを活かして、水産大学校卒業生の皆様が社会でより一層活躍できることを願っています。





水大学園だより

国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産大学校 〒759-6595 下関市永田本町2丁目7-1 電話083(286)5111
ホームページ <https://www.fish-u.ac.jp> [発行] 学 生 課

校長あいさつ

校長 下 川 伸 也



昨年（2022年）4月より水産大学校校長の重責を担うこととなり、2年目を迎えております。微力ながら引き続き水産大学校の教育・研究活動を充実するべく努力する所存です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、大学校の実績につきまして、令和4年度の卒業・修了生の就職率は97.0%、そのうち水産業及び関連産業への就職率は77.6%となりました。このことは、就職先となる企業の皆様からの多大なご支援とともに、合同企業説明会の開催（Web形式で126社参加）、学科長・担任教員等による学生就職支援のための企業訪問などの地道な広報活動が功を奏したのではと考えています。また、入学試験につきましては、本科で約3.7倍の高い倍率を維持でき、新学期を迎え本科189名、専攻科50名、水産学研究科11名と合計で250名の新入生を受け入れることができました。これまで、コロナ禍により中断を余儀なくされていた教職員による高校訪問を再開し、オープンキャンパス等のイベントも3年ぶりに対面で開催するなどの成果が徐々に現れてきたのではないかと思います。

この3年半、新型コロナウイルス感染対策に翻弄させられる中、今年度より少しずつ緩和の兆しが見られるとともに5月には感染法上の分類が「5類」に移行しました。コロナ禍以前の日常を取り戻しつつあるものの、一方では、感染「第9波」の到来も指摘され、足早に緩和することには懸念の声もありました。これまで、オンライン等による授業方法の確立に傾注してきましたが、分類が緩和されてからは、学内での感染症対策を再度見直し、安全性と実効性を考慮して段階を追って緩和を進めることとしています。具体例として、大学校構内の建物入り口での検温・消毒や教室等の換気などの基本的な対策は今後も継続しますが、原則として対面形式での授業に戻し、講義、実験・実習や卒論指導、乗船実習も含めた教育活動全般で実施することとしてきています。その他にも、クラブ活動における制限を撤廃し、学生自治会の活動や大学祭、地域のボランティア活動、地域住民の方々や近隣の漁業者や水産業界の皆様に向けた公開講座など、以前には

当たり前に行われていた行事を徐々に再開していき、“活気ある水大”に戻れるように努力する所存です。

また、水産大学校での最近の主なトピックスとして、「スマート水産業」への対応、「社会人教育の拡充」等が挙げられます。水産政策の柱である「水産業の成長産業化」のため、本校でもICT等の先端技術を活用した“スマート水産業”の推進を目指しています。このため、“スマート水産業”に対応する授業を充実し、シラバスの見直しを進めています。これまで、“スマート水産業”に関連する授業を6科目開講していましたが、令和4年度には15科目に拡充しました。加えて、本校教職員が漁業者や山口県と連携して開発した生産現場と産地市場を双方向で繋ぐアプリシステムをICTの活用の一例として授業の中で扱っています。“社会人教育の拡充”としましては、漁業従事者の確保に貢献するため、水産庁補助事業により漁船漁業に就業予定の水産高校生卒業生に対して四級海技士教育を実施するとともに五級海技士教育のコースも新設し、各海技士資格の取得を支援し、漁業従事者の育成に協力しました。

さらに、本校は国立研究開発法人水産研究・教育機構の人材育成業務を担う部門として、機構業務の一翼を担っています。今年度は、第5期中長期計画の期間5ヶ年のうちの3年目となり、本計画中では水産に関する学理・技術の教授とこれらに関連する研究を実施することを目標に掲げています。具体的には、①水産資源の適切な管理と持続的利用に寄与する人材育成、②水産生産技術の開発や社会実装に寄与する人材育成、③水産に関する広範な知識を有する水産技術者・海技士の育成の3つを柱に据えて進め、水産業を担う中核的な人材育成を推進することとして取り組んでいます。

以上、昨今のトピックスを述べてきましたが、水産大学校は、これまで通り、本科・専攻科及び水産学研究科の教育・研究活動が基盤であることに変わりはありません。引き続き、“水大生諸君がこの地で学び、水産学の基礎を身につけ、巣立っていく。”文字通りの母校として誇れるような学園づくりに邁進する所存です。保護者の皆様はじめ関係各位には、今後ともご支援とご理解を賜りますようお願い申し上げます。校長の挨拶といたします。

最近の話題

自己紹介

水産流通経営学科 講師 田村 剛



今年度4月に水産流通経営学科に着任いたしました田村剛（たむらごう）と申します。少々自己紹介をさせていただきますと、大阪の緑豊かな環境で育ちました。このことが、農学研究科で学ぶ一つの動機となっています。

大学学部と修士課程では経済学、これをベースに、博士後期課程では農学（主に農業経済学）を学び研究も行ってきました。大学院修了後、非常勤講師として、情報処理演習や外国語講読、経営学、簿記、コンピュータ会計、マーケティングなど、多様な科目を担当する形で大学教育に携わって来ました。

私の専門分野は、グリーン・ツーリズム（都会から農村地域への人の往来を増やし、いかに消費を増やすかの仕組みを考える）ですが、グリーン・ツーリズムを経済学的視点から見ますと、需要（農村地域への来訪者）と供給（来訪者を受け入れる地域住民）の関係により成り立っています。これらの二つの視点からアンケートやヒアリング調査などを実施し、その結果を分析する形でこれまで研究を行って来ました。

主な担当授業は、水産経営学、水産経営分析論、水産物消費マーケティング論です。このうち、特にマーケティングに関しましては、経済学をベースとしているため、これまでの学びと関連づけて、今後、教育・研究に従事していきたいと考えています。

まず教育面では、最近の学生たちを見ていますと、コロナ禍の影響もあってか、社会人基礎力の「前に踏み出す力」（アピール力）が弱いように感じます。就職活動やその後の仕事においてもアピール力は常に必要とされるため、今から対策を考えて実践した方が良くと考えます。マーケティングでは相手の立場で物事を考えることが重要視されています。学生たちにはこのことを、学習を通じて理解してもらい、その上で自分をいかにアピールしていくかについて一緒に考えていけたらと思います。

研究面では、新天地の山口県で人脈をつくることはもちろんのことですが、高齢化や担い手不足により相対的に活力が低下している水産業において、グリーン・ツーリズム、農産物流通やマーケティングの知識を活かし、水産物の生産・販売と消費の観点から漁村地域の活性化方策について研究していく予定です。

今後、いろんな場面で至らぬ点があるかと思いま

すが、温かい目で見守っていただき、ご指導・ご鞭撻を賜りますようよろしくお願いいたします。

着任のご挨拶

海洋生産管理学科 助教 杉野 亮介



本年度4月より海洋生産管理学科（海洋生産運航学講座）助教に着任しました杉野亮介と申します。

私は平成29年3月に本校専攻科船舶運航課程を修了し、水産庁へ入庁しました。水産庁では漁業取締船「東光丸」で三等航海士、「白萩丸」で二等航海士として勤務してきました。漁業取締船では、主に日本周辺海域において、漁業者がルールを守って操業していけるよう巡視や警戒、また、必要な場合には検査を行い、漁業秩序維持のための業務を担当してきました。

取締業務では、日本や周辺諸国の多種多様な漁法、漁船を見る機会が多く、日本周辺海域の操業実態を知ることができました。また、取締船ならではの機器や装備を駆使して、業務遂行することにより甲斐を感じていました。一方で、航海中は24時間いつ違反船が現れ、事件対応となるかと緊張状態が続いたり、取締りを効果的に行うためにも漁船に接近して行く場面が多く、操船に神経を使ったりと、大変で苦労したこともありました。

その他にも「白萩丸」乗船時には代船員装に携わり、乗組員と協力し、新しい船を一から造り上げていくという大変貴重な経験ができました。

学校では航海学の方で、航海士として必要不可欠なノウハウの教育に携わります。海技士教育の中で、私の船での実務経験をいかして、将来船乗りを目指す学生に、まず航海士として勤務していくには何が必要か、大切かを伝えていければと思っています。

着任して日が浅く、これまでの船舶職と教育職の業務内容の違いにまだまだ戸惑いを感じています。特に、自身が頭で理解できていることを、相手に分かりやすく伝えること、多数の学生と対面で実習を行うことなど、これまでに経験のないようなことばかりで、人に教えるということの難しさについても日々感じさせられています。

ただ、学生時代にお世話になった先生方がいる中で、その一員となって仕事をできる環境に、とても感謝しておりますし、まだ色々と慣れないことの多い私にとって、とても心強く思っております。まずは学科として、一大イベントである夏の海技実習で、自分の船乗り経験とパワーを発揮して、先生方と協力し実習に尽力していきたいと思っています。

海が正門前に広がり、水産を学ぶにも環境の整っている本校で、ここならではの部活動や講義など、学生の皆様が思う存分キャンパスライフを楽しんで頂けるよう、私自身も精一杯頑張って参ります。

着任のご挨拶

海洋機械工学科 助教 有 吉 将 希

令和5年4月1日付で海洋機械工学科の助教に着任した有吉将希と申します。私は、福岡県嘉麻市出身で、海洋機械工学科を卒業後、専攻船舶用機関課程を修了し、日鉄物流(株)という鉄鋼品の物流を行う会社に新卒で入社し、設備故障対策や業務効率化に関する業務を行ってきました。その後、転職を経て、令和5年3月まで防衛省で勤務しておりました。

防衛省においては、民間船舶を用いて部隊輸送を行う民間海上力活用事業のモニタリングや、諸外国軍隊との物品役務相互提供協定に関する国会対応等を行ってきました。イメージが付きにくいと思いますが、自衛隊のロジスティクスに関する業務だと考えていただければと思います。

ところで、皆さんは、このロジスティクスという言葉聞いたことがあるでしょうか。一般には「物流」、軍事用語では「兵站」と訳されますが、日本人はこれを軽視する傾向にあるというのは有名な話です。先の大戦におけるインパール作戦やガ島での戦いが顕著な例でしょうか。

私は仕事をする上で、ロジスティクスを広義に解釈しており、主業務そのものではないが、それを進めて行く上で不可欠な業務を全てロジスティクスだと考えています(例:情報システム、財務、営業、広報、人事、合意形成、法令規則)。このような解釈の下、私たちは、未だにロジスティクスを軽視しているように思わざるをえません。物流やバックオフィスには目を向けない「とにかく良い物を作れば売れる」思想が代表例でしょうか。再び日本が世界をリードするには、抜本的な意識改革が必要だと感じます。

ここで、学生の皆さんにお伝えしたいことがあります。皆さんは、技術職や船員になる方がほとんどだと思いますが、広義のロジスティクスを意識した視野の広い人材になってください。ロジスティクスは、組織内に分散化された各業務を結びつける役割を果たします。例えば、技術部門の目的が、新たな技術の開発だとしても、それは企業が利益を出すという目的に対する手段に過ぎません。目的・手段を結びつけることができる役割を、ロジスティクスが担っているという訳です。

最後になりましたが、これまで培った経験や知識を後輩たちに伝えて、優秀な人材を社会に送り出すことが大きな社会貢献であるという考えから、母校

へ転職をしました。至らぬ点が多いと思いますが、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いします。

今春の花粉症とアレルギーを抑制する海藻ポリフェノール

食品科学科 准教授 杉 浦 義 正

今春の4月3日、岸田文雄首相は花粉症について「もはや日本の社会問題と言っていいような問題だ」と発言しました(日本経済新聞, 2023年4月3日付)。これは、今シーズンのスギ花粉の飛散量が過去10年間で最多であることが環境省の調査で予想され、実際の花粉症シーズンでは例年よりも花粉症患者の増加や重篤化が顕在化したことによります。その環境省の調査(2022年度スギ雄花花芽調査の結果について, 2022年12月26日付)では、2022年のスギ雄花花芽数(個/m²) (すなわち2023年の年明けのスギ花粉量)が過去10年間(2012~2021年)で最大になる地域が多く、スギ花粉飛散量の大幅な増加が予測されました。具体的には、東北(福島)、関東・甲信越(東京, 神奈川, 新潟)、北陸(石川, 富山)、関西(京都, 兵庫)、中国(岡山, 広島, 鳥取)、九州(福岡)において過去10年で最大となり、その他ほとんどの地域でも平年値を上回りました。今シーズンは、花粉症患者にとって特に憂鬱なシーズンだったかと思います。また、2019年の全国疫学調査では、花粉症の有病率は19.6%(1998年)から42.5%(2019年)へと約20年間で倍以上に増加したことが分かりました(日耳鼻会報, 123(6), 485, 2020)。

このような社会的背景から、私どもは、花粉症等のアレルギー症状を予防・抑制する水産物やその含有成分の研究に取り組み、海藻(サガラメやツルアラメなどの褐藻類)に含まれるポリフェノールに明確な抗アレルギー作用を見出しました(Nat Prod Commun., 16(12), 1934578X211060924, 2021)。また、島根県西ノ島町産ツルアラメの乾燥粉末を使用し、花粉症等アレルギーの予防・緩和を訴求したサプリメントが2021年1月に発売されました(日水誌, 87(3), 295, 2021)。これら研究成果や商品化について、私ども機構よりプレスリリースを行いました(みなと新聞, 2021年8月27日付)。最近では、花粉症モデルマウスに対する緩和作用の論文が公開されました(Biosci Biotechnol Biochem., 87(6), 649, 2023)。以上の成果を含め、今後も展示会等で水産物の有用性について普及活動を続けてまいります。



本校で再び始まったウナギ研究

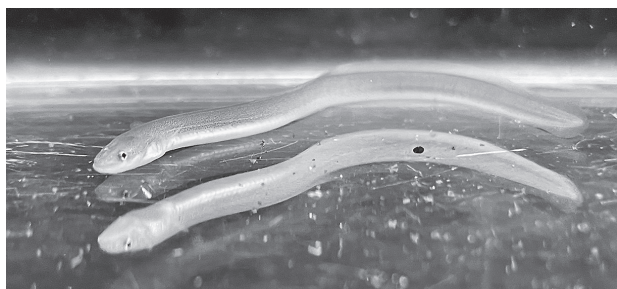
生物生産学科 講師 南 條 楠 土

生物生産学科の沿岸生態系保全研究室では、河口域などに生息する魚類や無脊椎動物の基礎的な生態の研究に取り組んでおり、日頃からフィールドに出て生き物の観察や採集を行っています。正直、これまでの研究対象はマイナーな種が多かったのですが、このたび長崎大学と水産資源研究所と共同で、ニホンウナギの稚魚の生残に関する研究に取り組むことになりました。

一般に、魚類は仔魚・稚魚期に天敵に捕食されるリスクが高く、この時期の生残率がその種の資源量に大きなインパクトを与えます。ウナギの場合、海から河川に侵入した後、シラスウナギ、クロコ、黄ウナギ、銀ウナギと成長していきますが、特にサイズの小さな時期に捕食リスクが高いと考えられます。そこで、この時期のウナギ稚魚はどのように捕食者から身を守っているのかを河床構造に着目した実験で調べました。河床構造である礫地と砂地を再現した水槽実験を実施したところ、ウナギ稚魚（クロコ）は昼夜条件を問わずに砂区よりも礫区を利用することがわかりました。次に、ウナギ稚魚の捕食リスクと基質の関係を調べてみると、ウナギ稚魚の生残率は昼夜ともに礫地で高く、捕食者であるテナガエビによる攻撃回数は礫地で減少することがわかりました。これにより、ウナギ稚魚は砂地よりも礫地を好み、その主な理由は天敵からの攻撃を避けるためであると考えられます。

ウナギが礫地のような複雑な場所を好む傾向は、ウナギ伝統漁で知られる石倉カゴを用いた研究からも報告されています。これは昨年本校に着任された大戸教員による九州大学との共同研究の成果です。河川に設置した石倉カゴを構成する浮石の大きさを変化させると、小型の黄ウナギは小さい石、大型の銀ウナギは大きい石の間隙をそれぞれ好んで利用することがわかりました。これらを踏まえると、近年減少しているウナギ資源を回復させていくには、大小さまざまな礫石が共存するような、環境不均一性の高いハビタットを保全もしくは造成し、本種の生残率を高い水準で維持することが重要であると考えられます。

本校では、古くは1930年代より松井 魁先生や高井 徹先生がウナギの生態研究に精力的に取り組んでおられました。その後、日本国内の様々な研究者の努力により、現在ではウナギの生態についてそ



の多くが解明されつつあります。本校にありながらウナギ研究初心者の方の当研究室ですが、今後も教員と学生が力を合わせてウナギ研究にチャレンジしていきたいと思っています。

着任のご挨拶

耕洋丸次席三等航海士 檀 野 裕 希

皆様、こんにちは。令和5年4月より耕洋丸次席三等航海士に着任しました、檀野裕希と申します。初めに、簡単に自己紹介をさせていただきます。私は兵庫県神戸市出身で幼い頃より船や海が身近にある環境で育ち、いつしか航海士という仕事に憧れを持つようになり本校への入学を決めました。本学で学ぶ中で水産系調査船への興味が強くなり当機構へ就職しました。その後、令和5年3月に本校専攻科船舶運航課程を修了し、今に至ります。



私自身、耕洋丸への配属が決まった際に、卒業したばかりで練習船教官として学生指導が務まるか不安でした。ですが、実際に4月から新米航海士として働いてみて、学生の時にここが足りなかったと思う点が様々見えてきました。そういったことを踏まえて、学生が近い将来、実際に航海士として働くのに困らないように、今年専攻科を卒業した年齢の一番近い航海士の私だからこそ教えられることを指導していこうと決めました。また、本船では船乗りを養成する学科以外の乗船もあります。そういった学生にもこの乗船実習が将来何かの糧になるように、学生の好奇心や探求心に親身になって応えられる指導を心がけております。

現在、練習船では学生の実習と兼ねて調査航海が行われています。トロールなどの網を曳く調査やCTDを使用した定点保持などの操船を任せていただき、まだまだ自身の実力不足を痛感する日々です。私が調査船を志望した理由として調査操船で魅了できる航海士になりたいという目標があります。目標達成のために、これから多くの経験を積み、学んでいきたいと考えています。

私が学生時代にご指導頂いた教官の方々は様々な経験をされ知識が豊富で、人間として尊敬できる方ばかりでした。私自身まだまだ未熟ですが、少しでも早く私も学生にそのように思ってもらえるように、指導しながら私自身も学生と共に学び成長できればと思います。

水産大学校練習船の実習は、より少人数で間近で観ながら、実践的に行えることが魅力であると考えています。水産大学校では、これらの実習を通して社会で即戦力となる人材を毎年輩出し、様々な分野でご活躍されている方々が大勢おられます。これからも多くの優秀な人材を輩出できるように、練習船教官として微力ながら貢献していきたいです。

在校生の声

コロナ禍での生活と実習の変化

水産流通経営学科3年 山本 晴己

本校に入学して2年が経ち、水産大学校での生活も残り半分となりました。入学後の1年目ではコロナ禍の影響で遠隔の授業が多くサークル活動も行われていなかったため、想像していた大学の生活を送ることが難しく、この先の大学生活に不安を覚えました。しかし1年目の後半から徐々にコロナによる規制が解除され、2年目には対面での授業やサークル活動、乗船実習などが再開し、同じ学科の人や違う学科の人、先輩方、先生方との交流が増え充実した学校生活を送ることができるようになりました。

2年目に行われた水産経済・流通調査では実際に下関漁港まで出向き下関漁港地方卸売市場としての役割やブランド化の取り組み、今の下関の漁業の問題点などのお話を聞くことができました。現在の水産業は盛り上がりがなく魚価の低迷や漁獲量の規制・減少などにより漁業者含め水産業に関わる者が苦しいのが現状です。その中でも漁業効率を上げる取り組みや若手の育成などを行い、現状をよりよくしようとする努力と姿勢は私の印象に強く残りました。

大学生活も3年目に入り就職活動について考えていかなければならない時期だからこそこれまでの2年間に学んだ内容や体験を生かして悔いのない選択と学園生活を送れるように今できることを精一杯取り組んでいきたいと思います。

未来への航海

海洋生産管理学科1年 山口 虎太郎

水産大学校に入学して早いもので約3か月が過ぎました。入学当初は友達作りや、勉強についていけるかととても不安に感じることもありましたが、今となってはここでの生活にも慣れ、全国各地から集まった仲間と共に勉学に励んでいます。

私は幼い頃から海が好きであり、海の上で活躍することのできる航海士に強い憧れを抱いていました。そこで、高校は地元の水産高校に進学し海や船に関する勉強や、様々な実習を行ってきました。私が所属する海洋生産管理学科では、7月に海技実習があり、2年次には早くも乗船実習があります。現在は、共通教育科目を中心に学習を進めていますが、航海士になるという目標を達成するために早期から海技士資格の取得や英語の学習を進めていきたいと考えております。また、クラブ活動では高校に引き続き端艇部に入部し、海上での活動を通じて集団行動を行う上で必要となる協調性や技術の習得に励んでおります。

大学生活は、自分が想像していたよりとても楽しく充実しているように感じています。この吉見の地

で出会った仲間達や先生方、両親へ感謝するとともに将来立派な航海士となり恩返しできるように日々精進し、未来への航海に挑戦していきたいと考えています。

機関士を夢に見て

海洋機械工学科2年 三上 多恵

海に憧れ、機関士になる為にこの地へ来てから早2年になりました。2年生に進級し、寮生活にも慣れ、新しい専門科目が沢山始まりました。一年生の間は実習が少なかった為、実習や製図の授業の時は、ようやく機関科らしくなってきたなとしみじみ感じ、立派な機関士を目指そうという意識も芽生え始めてきています。

今年はコロナも落ち着き、部活動が再開し友人、先輩方との交流の機会が増え、世界が広がり始め、毎日が充実し、楽しいです。週末のアルバイトのない日は採集や、一人旅に行くことがとても楽しみです、それが平日の活力になります。初めて行く場所をひたすら歩く時間や、海に入り生き物を探している瞬間、ふと空を見上げると都会とは全く違う世界に自分が今身を置いているということを改めて感じこの環境への感謝の気持ちが湧き上がります。

この場所にいることのできる時間は限られています。あっという間に過ぎてしまうであろうこの大学時代を大切にしたいです。一年生の間は乗船の機会がなかったので、今年は初めて学校の船に乗ります。10月から一週間の航海があり今からとても待ち遠しいです。

座学で学んだことを実習でも活かせるよう、そしていつか立派な機関士になれるようにこれからも勉強に動きたいと思います。

洋上鮮度管理実習

食品科学科3年 玉田 夏梨

私は5月に耕洋丸に乗り、1週間の洋上鮮度管理実習に参加しました。その実習では、トロール漁で獲れた漁獲物の選別や鮮度管理、加工食品としての干物等の製造を行いました。

トロール漁で獲れた魚は種類や大きさ、漁獲量が異なり、網を引き上げるまで何がどれくらい漁獲できたか分からないため、自然を相手に漁を行うことの難しさを実感しました。私は実習が始まるまで魚を捌いた経験がなかったため、班員や船員の方に教えてもらいながら魚を捌きました。最初は一人で捌くことができなかったのですが、何匹もの魚を扱ううちに捌き方を覚え、一人で魚を処理できるようになりました。

乗船前は、1週間も船の上で過ごすのは長くて辛いのでは、と思っていました。しかし、普段の授業では学ぶことができない船の運航に関わることや、

漁獲されたばかりの魚を用いて加工を行うなどの実践的な学びが多く、あっという間に実習を終えることができました。コロナ禍の影響もあって実習が始まるまでは同じ学科の人と関わる機会が少なかったのですが、1週間船の上で共に過ごして共同作業を行ったため、同じ学科の人と交流を深める良い機会になったと思います。

水産大学校に入学して

生物生産学科1年 松村 光 聖

私が水産大学校に入学して早くも2ヶ月が経過し、初めての一人暮らしにもだんだん慣れてきました。入学当初は全員初めて会う人で「人間関係は上手いくのか」や「勉強についていけるのか」など不安なこともたくさんありましたが、いざ入学すると面白い友達がたくさんでき、勉強も分からないところを互いに教え合っているので不安もなくなり、今では毎日楽しく過ごしています。

しかし大学生として楽しいことだけをするのではなく、やるべきこともしていかななくてはなりません。初めての一人暮らしで怠けていても以前のように注意してくれる人がおらず「自分で自分のことを自制しなくてはいけない」と強く感じました。大学生は良くも悪くも学校以外の時間が多くあり、だから過ごすこともできれば専らバイトや部活に専念することもできます。私はそんな時間を勉強や部活に費やそうと思います。水産大学校という最高の学びの場を生かし、私の勉強したかった水産に関する勉強や英語などの苦手な科目を積極的に学びたいです。また部活動は友達と集まり一から作ろうとしており、わからないことや今まで考えもしなかったよ

うな困難がたくさんありますが、全員で協力しながら最高の部活を作り上げたいと思います。

水産大学校という最高の環境に居られることに感謝をしながら「研究者になる」という夢に向かって進み続けます。

研究科に進学して

水産学研究科1年 水産技術管理学専攻
山 本 哲 太

私は海洋生産管理学科を卒業後、水産技術管理学専攻の漁業技術管理学専攻分野に進学し、現在スルメイカの不漁の原因を探るべく、孵化時期の変化を中心に研究を行っています。

水産大学校へ入学した頃、私は漠然と海の生き物に関する勉強がしたいと思っていました。その後、水産重要種に興味を持ち、対象魚種の生態や資源管理手法の勉強を進んで行うようになりました。4年次の卒業論文では、実際に資源管理で使われている調査サンプルからデータを取るところからはじめ、資源管理には多くの人がかかわっていることを知りました。そして、自分も資源管理に携わるに人間になりたいと思い、自身の知識や経験をより深めようと研究科への進学を決意しました。

研究科では2年の研究期間で修士論文を完成させることを目的に研究を進めます。1年次には講義がありますが、自分の専攻以外の講義を受講できるため、水産に関する幅広い知識を得ることができます。学部頃よりも研究の自由度が広がる分、主体性や計画性が求められますが、2年という短い期間で研究成果が残せるよう、これから日々精進していきたいと思っています。

クラブ紹介

伝統ある「朝の課業」

生物生産学科（令和5年3月卒業）

中 島 嶺 斗

生物生産学科水産動物学研究室では、毎朝8時10分から、二学科共用実験棟玄関から生物生産学科側の1階の廊下、および研究室の清掃を行っています。この清掃活動は実験棟が竣工し運用を始めて以来、30年以上にわたって先輩から後輩へと引き継がれ、現在に至ります。

研究室周辺の建物の公共スペースをきれいに保つこと、朝決まった時間に登校して研究室をベースとした生活を開始することが目的です。大学生の生活リズムは乱れがちですが、社会人になると一般的には朝8時30分から仕事を開始することを求められ、4年生の就職活動でも同じことが言えます。大学3年生後期の研究室配属以降、研究室における様々な活動に参加しながら、就活や卒論研究に備え規則正しい生活リズムを身につけます。私は、この研究室の清掃活動によって朝の生活習慣が身につき、就活

や研究生活などで早朝から活動する場合でも苦に感じることはありませんでした。さらに、清掃を行うことで、自分たちが勉強や研究を行う環境を快適にすることができ、より集中して取り組むことが可能になります。

清掃の時間は15分から20分程度と決して長い時間行われているわけではありません。毎日短時間ではありますが、研究室の「朝の課業」として30年以上にわたって代々引き継がれてきたことが認められ、このたび表彰をしていただきました。永く継続してきたことが認められるとともに、私もその一端を担うことができ、とても光栄に思います。この「朝の課業」が研究室の伝統として、これからも途切れることなく後輩達に受け継がれていくことを期待しています。

学生部だより

令和4年度における就職対策と
進路状況について

学生部長(就職対策検討委員長) 村 瀬 昇

本校では学内に就職対策検討委員会を設置して、学生課就職支援室の就職統括役を中心に学生への就職支援を行っています。

就職対策に関する主な活動は、(1) 3年生を主に対象とした自己分析・自己発見のための職務適性テストの実施、(2) 就職活動の専門講師やその他様々な分野で活躍されている講師を招いた就職ガイダンスの開催、(3) 就職手引き書「就活支援ブックー就職活動編ー」を3年生全員に配布し、これを用いた就職指導、(4) 企業等の採用情報の把握、(5) 企業研究会・説明会の開催、(6) 就職活動を行う際のキャリアカウンセリング等です。

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症への対策として、令和3年度に引き続き、合同企業説明会をWebで開催し、126社に参加頂きました。また、水産及び関連分野の業界や企業の理解を深めること

を目的として、キャリア教育の一環として実施している企業研究会・説明会を対面で14件実施するとともに、本校の就職支援ツールとして令和3年度に導入したキャリアス UC を活用して学生に情報提供しました。さらに、採用時にWEB面接が導入されている背景から、WEB面接専用のブースを学内に設けるなど環境面でも配慮を続けました。これらの活動の結果、令和4年度卒業・修了者の就職希望者166名(本科110名、専攻科48名、研究科8名)の就職率は97.0%(前年度は97.7%)で、このうち水産関連分野に77.6%(前年度は80.4%)が就職しました。

今年度の本科3年生、専攻科進学予定の4年生や研究科1年生(令和7年3月に卒業・修了予定)が対象となるインターンシップは、大きく制度が変わり、就業体験が重要視されるだけでなく、インターンシップに参加した学生情報を企業側が採用選考活動に使用できるようになります。本校では引き続き、多様な採用に関する情報を収集し、学生の就職活動が円滑に行えるように必要な支援を実施してまいります。

令和4年度 卒業・修了者の進路状況

令和5年3月31日現在

本 科 専攻科 研究科	修 卒 了 業 者 及 数 び	進 学							就 職 希 望 者 数 ②	就 職										進 路 未 定 者 数	就職率（％）				
		大 学 院	研 究 科	専 攻 科	専 攻 科 等 学	研 究 生 等	進 学 者 合 計	水 産 関 連 分 野											者 就 へ 職 ー 希 ス 望		者 就 へ 職 ー 内 ス 定	全 体 就 職 率			
								国 家 公 務 員		地 方 公 務 員	各 種 団 体	養 殖 漁 業・	水 産 加 工	水 産 流 通	調 査 開 発 等	供 給 機 材 等	小 計 ③	そ の 他 分 野		内 定 者 合 計 ①					
水 産 流 通 科 水 経 営 学 科	男	17	0	0	0	0	0	1	16	0	2	4	1	0	2	0	3	12	4	16	0	75.0	75.0	100.0	
	女	5	0	0	0	0	0	0	5	2	1	0	0	0	2	0	0	5	0	5	0	100.0	100.0	100.0	
	計	22	0	0	0	0	0	1	21	2	3	4	1	0	4	0	3	17	4	21	0	81.0	81.0	100.0	
海 洋 生 産 学 科 (9/30 卒業 1 名含む)	男	33	3	1	19	0	0	23	0	10	0	0	0	1	3	0	4	8	0	8	2	80.0	100.0	80.0	
	女	9	1	0	5	0	0	6	1	2	0	0	0	0	0	0	1	1	1	2	0	50.0	50.0	100.0	
	計	42	4	1	24	0	0	29	1	12	0	0	0	1	3	0	5	9	1	10	2	75.0	90.0	83.3	
海 洋 機 械 工 学 科 (9/30 卒業 1 名含む)	男	44	0	4	23	0	1	28	1	15	0	0	0	0	0	0	10	10	3	13	2	66.7	76.9	86.7	
	女	3	0	0	1	0	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0	2	2	0	2	0	100.0	100.0	100.0	
	計	47	0	4	24	0	1	29	1	17	0	0	0	0	0	0	12	12	3	15	2	70.6	80.0	88.2	
食 品 科 学 科	男	33	4	4	0	0	0	8	1	24	0	1	3	0	6	6	0	2	18	6	24	0	75.0	75.0	100.0
	女	10	0	0	0	0	0	0	0	10	0	1	0	0	4	0	0	9	1	10	0	90.0	90.0	100.0	
	計	43	4	4	0	0	0	8	1	34	0	2	3	0	10	10	0	2	27	7	34	0	79.4	79.4	100.0
生 物 生 産 学 科	男	25	3	2	0	0	0	5	0	20	1	2	2	0	2	1	3	4	15	5	20	0	75.0	75.0	100.0
	女	7	1	0	0	0	0	1	0	6	1	1	1	0	0	0	2	5	1	6	0	83.3	83.3	100.0	
	計	32	4	2	0	0	0	6	0	26	2	3	3	0	2	1	3	6	20	6	26	0	76.9	76.9	100.0
計	男	152	10	11	42	0	1	64	3	85	1	5	9	1	9	12	3	23	63	18	81	4	74.1	77.8	95.3
	女	34	2	0	6	0	0	8	1	25	3	3	1	0	4	6	0	5	22	3	25	0	88.0	88.0	100.0
	計	186	12	11	48	0	1	72	4	110	4	8	10	1	13	18	3	28	85	21	106	4	77.3	80.2	96.4
専 攻 科 船 舶 運 航 課 程	男	21	0	0	0	0	0	0	0	21	3	0	5	0	0	4	1	1	14	7	21	0	66.7	66.7	100.0
	女	2	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	1	0	0	2	0	2	0	100.0	100.0	100.0
	計	23	0	0	0	0	0	0	0	23	4	0	5	0	0	5	1	1	16	7	23	0	69.6	69.6	100.0
専 攻 科 船 舶 用 機 関 課 程	男	23	0	0	0	0	0	0	0	23	2	0	1	1	0	7	4	0	15	8	23	0	65.2	65.2	100.0
	女	2	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	1	0	0	0	0	1	2	0	2	0	100.0	100.0	100.0
	計	25	0	0	0	0	0	0	0	25	2	0	2	1	0	7	4	1	17	8	25	0	68.0	68.0	100.0
計	男	44	0	0	0	0	0	0	0	44	5	0	6	1	0	11	5	1	29	15	44	0	65.9	65.9	100.0
	女	4	0	0	0	0	0	0	0	4	1	0	1	0	0	1	0	1	4	0	4	0	100.0	100.0	100.0
	計	48	0	0	0	0	0	0	0	48	6	0	7	1	0	12	5	2	33	15	48	0	68.8	68.8	100.0
研 究 科	男	4	0	0	0	0	0	0	0	4	1	1	0	0	0	1	0	0	3	0	3	1	75.0	100.0	75.0
	女	4	0	0	0	0	0	0	0	4	0	1	3	0	0	0	0	0	4	0	4	0	100.0	100.0	100.0
	計	8	0	0	0	0	0	0	0	8	1	2	3	0	0	1	0	0	7	0	7	1	87.5	100.0	87.5
総 合 計	男	200	10	11	42	0	1	64	3	133	7	6	15	2	9	24	8	24	95	33	128	5	71.4	74.2	96.2
	女	42	2	0	6	0	0	8	1	33	4	4	5	0	4	7	0	6	30	3	33	0	90.9	90.9	100.0
	計	242	12	11	48	0	1	72	4	166	11	10	20	2	13	31	8	30	125	36	161	5	75.3	77.6	97.0

【就職先の分類】

水産関連分野

各 種 団 体：水産に関する団体(漁業、流通、船舶等関係団体)

漁 業・養 殖 業：水産動植物の採捕又は養殖の事業者

水 産 加 工：水産動植物を原料又は材料として、食料、肥料その他の有用物を生産する事業者

そ の 他：水産業関連分野以外の公務員・団体・企業など

水 産 流 通：水産物の貯蔵、運搬、販売等の流通に関する事業者

調 査 開 発 等：海洋水産関連の調査会社

資 機 材 供 給 等：水産業やそのサービス部門等に資機材供給等を行う関連事業者

令和4年度卒業生進学・就職状況一覧表

令和5年3月31日現在

◎進 学 (大学院等)	各種団体	グリーンブルー(株)	東洋冷蔵(株)
鹿児島大学大学院	(国研) 海洋研究開発機構	ケイラインローローバルシップマネージメント(株)	内海造船(株)
金沢大学大学院	(一財) 化学物質評価研究機構	五栄土木(株)	(株)名村造船所
九州大学大学院	(国研) 水産研究・教育機構 (船舶職員)	(株)国際電気セミコンダクター	新潟造船(株)
高知大学大学院	(国研) 水産研究・教育機構 (研究職)	サービス	(株)ニシショウ産業
東京海洋大学大学院	全国合同漁業共済組合山口県事務所	五洋建設(株)	(株)西日本科学技術研究所
長崎大学大学院	(一社) 大日本水産会	サミット(株)	(株)西原商会
奈良先端科学技術大学院大学	垂水市漁業協同組合	(株)サン・ダイコー	日研トータルソーシング(株)
北海道大学大学院	東京海洋大学	(株)サンヨー堂	日本ハム食品(株)
三重大学大学院	徳島県漁業協同組合連合会	JRCS (株)	日本郵船(株)
宮崎大学大学院	(一社) 日本海事検定協会	ジェイエ北九州くみあい飼料(株)	バローホールディングス(株)
	(一財) 日本食品検査	四国システム開発(株)	早駒運輸(株)
	(一財) 日本食品分析センター	(株)シモセン	林兼産業(株)
◎就 職	宗像漁業協同組合	商船港運(株)	阪九フェリー(株)
官公庁	山口県漁業協同組合	商船三井客船(株)	(株)BML フード・サイエンス
水産庁 (一般職)	山口県農業協同組合	商船三井フェリー(株)	(株)日阪製作所
水産庁 (船舶職員)		(株)新来島どつく	フィード・ワン(株)
財務省門司税関	民間企業	新日本海フェリー(株)	(株)フジデリカ・クオリティ
国土交通省九州運輸局下関海事事務所	(株)あきんどスシロー	(株)水研	(株)ベネフィットジャパン
気象庁(海洋気象観測船乗組員)	旭酒造(株)	(株)セコマ	(株)ホテイフーズコーポレーション
愛知県警	味日本(株)	全日本食品(株)	マリナフーズ(株)
千葉県	アニコム損害保険(株)	全農チキンフーズ(株)	(株)マルタイ
福井県	アビ(株)	第一設備工業(株)	(株)名門大洋フェリー
山口県	飯野海運(株)	大東魚類(株)	(株)モリタ屋
大分県	出光タンカー(株)	ダイハツディーゼル(株)	山崎製パン(株)
長崎県	(株)伊藤園	タイハイ(株)	(株)ヤマリア
綾部市	上野トランステック(株)	太平洋フェリー(株)	(株)ヤヨイサンフーズ
北九州市	(株)うおいち	大洋エーアンドエフ(株)	(株)ヨシムラ
広島市	(株)宇部ケイキ	(株)多度津造船	(株)ライフコーポレーション
	(株)エコー	チロルチョコ(株)	理研ビタミン(株)
	NS ユナイテッド海運(株)	(株)チャーム	(株)リゾーム
	ENEOS オーシャン(株)	(株)ちゅうせき	(株)六甲船舶
	カクサン食品(株)	(株)長府製作所	郵船クルーズ(株)
	鹿児島船舶(株)	常石造船(株)	郵船コーディアルサービス(株)
	GAMAKATSU・PET・LTD	鶴見サンマリン(株)	郵船ロジスティクス(株)
	かめや釣具(株)	東亜建設工業(株)	自営業 (漁業)
	川崎汽船(株)	トウショク(株)	
	関門港湾建設(株)	東都水産(株)	
	共栄マリン(株)		五十音順

令和5年度入試状況

本校の令和5年度入試状況をお知らせします。昨年11月に実施された学校推薦型選抜には、全学科で136名(前年度120名)の応募があり、また、今年2月に実施された一般選抜には全学科で541名(前年度478名)の応募があり、推薦と一般の合計で677名の志願者数となりました。

学科別応募状況は、水産流通経営学科40名(募集人員20名に対する倍率2.0倍)、海洋生産管理学科153名(募集人員45名に対する倍率3.4倍)、海洋機械工学科82名(募集人員45名に対する倍率1.8倍)、食品科学科119名(募集人員45名に対する倍率2.6倍)、生物生産学科283名(募集人員30名に対する倍率9.4倍)でした。全体では677名(募集

人員185名に対する倍率3.7倍)、前年度(令和4年度)入試の志願者数598名(3.2倍)から79名の増加となりました。

令和4年度の西日本を中心とした高校訪問は、新型コロナウイルス感染症の影響がありましたが、ほとんどの高校を直接訪問し、本校の説明などを行うことができました。また、昨年度のオープンキャンパスは、8月20日と21日に、参加者数を限定し、感染対策を徹底した上で3年ぶりに校内で実施しました。たいへん盛況で本校の魅力を十分に知っていただいたと実感できました。

今年度も引き続き、受験生確保のための活動として高校訪問やオープンキャンパスなどへ積極的に取り組むことで、水産学を学ぶ意欲の高い、多くの高校生に志願して頂けるよう努力して参ります。